WASON
HQ
1104
J??

Jun. 1897
no. 444

明治三十年六月廿五日

女學雜誌

第四百四十四號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百四十四號目次

◎社說

白癡の歎

◎評論

人心萎靡

◎女學

高等女子教育の必要を論じ併て其反對說に答ふ　成瀨仁藏

女學生の集合◎情死の辨

情死統計　無識菴主人

◎教育

一國の文政

内地雜居後の國民教育　曲浦

國家說の弊癸に至る矣◎忠孝心の弊◎無益なる忠義愛國の教育◎新士風、舊士風◎三陸地方海嘯後の教育狀況

◎雜錄

臨婦を哀れむ　鴎村子

樹陰茶話　星野巴聲

（きつれ橋◎おいぬさま◎松風蘿月）

明治四年岩倉大使一行歐米回覽實談

◎隨感

古橋水頭の螢◎暗き夜の月見草◎雅心何ぞ久しき◎大嘘の嘘◎嘘無く生々さ

◎時文

つきぐさ◎女子教育談◎諸葛武侯◎支那戯曲小說史◎新著月刊第三號◎太陽臨時增刊◎家庭新聞

◎片々◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や簡易實際を專らにし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。

◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらは其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	
一冊	價金拾錢
一年前金	金貳圓（無郵稅）

廣告料	
一行 一回（廿字詰）	前金十錢
同 三回以上	一割引
同 六回以上	二割引
但し不道德なる廣告は謝絶す。慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く	

送金
爲替は東京麴町郵便局に宛て小爲替にすべし○郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割增を添ゆべし

注文
注文は東京麴町區下六番町六番地女學雜誌社あてに申越さるべし

女學雜誌出版書目

書名	著者	正價	郵稅
腓立比物語	櫻井成明譯	金二十八錢	金六錢
公娼可滅	巖本善治著	金三錢	金一錢
教育講義	同	金七錢	金二錢
婚姻論	横山雅男著	金十二錢	金四錢
產婦小兒攝生法	船越鼎太郎著	金八錢	金二錢
小說 善惡の岐	中島とし子著	金十七錢	金四錢
癈娼演說	島田三郎、植木枝盛合著	金三錢	金一錢
西洋女禮	本社編	金十錢	金二錢
小供の話	同	金四錢	金二錢
兒育草	同	金十二錢	金一錢
藝者と手掛	炭谷小梅著	金三錢	金二錢
戯曲 桂吾郎	阿波鳴門左衛門作	金十錢	金二錢
邦文學	松山高吉著	金十二錢	金四錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百四拾四號

明治三十年六月二十五日發兌

社說

白癡の歎

大須賀亮一君、米國に白癡敎育を研究せられ、世人漸やく之を傳聞するに及びてより、白癡の事ひろく當世の論題に上ることとなれり。或ひは喫驚するものありて曰く、諺に馬鹿につけべき藥はなしと言へり、ましてや之を敎へて利巧者となすに於てをや、其の効なきこと明白なりと。

然れども、外國に於ける白癡敎育の實際の成効を聞くものは、再たび事の意外なるに驚かざるを得じ。凡そ八膓五躰を完全に備へたる人間に巨多の錢と勞力とを費やし、所云る文明の法方によりて當代の學術を敎へたるすら、能く眞の人となるものは、十に二三もなき割合なるに、彼の白癡の敎育せられて通常の人格を得べき迄に成効するは、平均、十に八九の割合なりと言へり、左らば、敎育として、白癡の敎育の効驗多きことは、殆ど他に比類なしと云ふべし。

然し乍ら、此は奇とすべきに似て實は否らず、惟ふに當に然るべきの事歟。敎育の用たる、素と絕無の物を賦與するにあらずして、單に未成の種子を開發助長するの外なきことを知らば、かの白癡と云ひ白癡と云ふもたゞ或る事情に故障せられて暫く其開發を延引したるに過ぎざる種子に對し、もし好く適度の法方を施して以て其の成長を助くることあらんには、陰鬱したる勢力俄然勃發して、自から激して能く發育す可きや必せり、何ぞ必らずしも之を奇怪の事とすべけんや。

寧ろ惟んみるに、白癡敎育の事の如きは、敎育中の最も愉快にして、最も結果多きもの也。喩へば、白布に眞黒を畵くが如し、他の暗淡たる感化と、雜色の混合となからしむることを得て、純乎たる敎化の効力を其心身の底に徹せしむることを期圖するを得べし。

左れば、白癡敎育の行はるゝは、一面には敎育の慈悲の普ね

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

く行はるる所以を證すると同もに、他の一面には、教育の學理技術に種々の發明を與へ、其の効驗の及ぶ所に明白なる成績を表白するの利益あるべし。ましてや、白癡の人倫ほ此の如しとせば、幸ひにして天禀滿足の發育を遂げ居らんものは、其學の達する所遂に測り知るべからざるものあるを覺り、教ふるものも、教へらるゝものも、同もに大いに信ずる所を增すべき也。

左れど、此に至りて更めて一言せざる可らざることあり。そもそも、白癡と白癡ならざるものとの相違は、何によりて區つべきやと。

此の問題は、歐米に於ても諸學者が煩はしく論辨する所なり、吾人は今ま煩瑣たる其論窩の內に入らんとするものにあらず。但だ一事を告ぐ。抑も世上方今、自から白癡ならざることを許しつゝあるの人物なりとも、もし仔細に他の論評を蒙りて、多少白癡らしくなき人は幾何ありやと。

スタイン曾て留學中の日本書生を嘲つて曰く、何んぞ白癡の多きや、能く暗ずることを爲す、能く辨ずることを爲す、能く摸倣することを爲す、而して毫も識見あるなし、遂に白癡と距る幾何ぞやと。吾人當時之を傳聞して慨して止まざりき。曩に大須賀君が白癡教育を研究して歸朝せらるるや、吾人曾て海舟先生に其の珍を語る、先生笑つて曰く、世上今日何んぞ白癡多きや、余が家に日々來訪するもの多くは是也と。吾人また一笑に附するを禁ずる能はざりき。

左れど、飜つて熟思して審に人情の現態を考ふるに、吾人不肖、もとより世の堂々たる君子をあげて白癡多しと言ひ去ること能ざるも、所謂る白癡と相似ること多きや、相違ふこと多きやの問題に至つては、頗ぶる迷惑せざる能はず。抑も、世上、純乎として、白癡の躰を存せざるもの何處にありや。

つぶさに觀ずれば、人間、何んぞ癡躰の多きや。因果終始を誤らざるもの幾何かある。方圓の區別を忘れ、大小の相違をあやまり、長短、黑白、眞僞、善惡のけじめを無みするもの、滔々として皆な是れならずや。古の聖賢大悟して、之を煩腦迷執と云ふ。而も煩腦を去脫し、迷執に離隔するもの幾何かある。榮華にうかれ、生死に醉ひ、利達の羈に縛られて、流轉變化を意はず、朝露を串ざしにして虹霓の衣に包まれ、砂丘に礎し、腐木に梁わたして、万代のすまひを夢

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

む。痴狀そも〳〵可憐の外ならじ。

左らば、世人は何等の抱負と、何程の自信とありてか、彼の白癡を眼下に睨せんとはするや。白癡の馬鹿らしきは天眞なり、純白にして當然なり。諸君の馬鹿らしきや、幾分の滑稽ある他は、寧ろ惡むべしとなす也。諸君乞ふ白癡を輕んぜんとすることを愼しめ。

依つて思ふ、かの白癡教育の名や頗ぶる穩當ならずと。若し世人亦皆な白癡らしき所ありと自から許して而して后ち白癡教育と言ふことあらば、此の白癡教育は普通教育と同名たるべし。然し乍ら、世人今日の感覺に於て、之に名して白癡教育と云ふは頗ぶる不可なり。

外國人亦た之を思ふものなる歟、或は曰く、未發達兒の教育、もしくは、弱心者の教育と。今や我國初めて其の教育の行はれんとするに際しては、其名を撰ぶ亦た一要事なり。諸君は白癡の伍たることを許して依然白癡教育と言はんか、もしくは他に別名を用ゐんか。

吾人試みに一名を題して同志に問はん。曰く。白知教育。

評論

人心萎靡

時勢の來往は風の己がまゝに吹くが如し、何處より來り何處へ行くを知らず。但だ夫れ樹靜ならんことを欲すれども尙ほ撼ぎ、根幹枝葉の顚はに動搖することを休めざるにより、則ち風あることを知る。たとひ、凡眼の靈ならざるものありとも、今の風向に望み見て而も勢の來往を察知せざるの愚あらんや。

一言をもて評喝すれば、今の大勢は四個字をもて悉くすべし。曰く、人心萎靡。

何の情態によりての人心萎靡ぞと言はんに、人心惣べて望を失なひたれば也。たとひ空想にせよ、理想あるものは其の望を失ふことなく、望あるときは萎靡することなし。たとひ、本來は有望の地歩に立つものなりとも、其の望を覺識せざるに當りては、望なきと同じ、無望の人心の萎靡は遂に免るべから

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ざる也。試みに問へ、現在の輿衆、個々如何んの望かあると。惟ふに蓋し大率之焉たらん。

大久保甲東、明治維新の事業を經綸して三十年とせり。而して、彼と彼の半身たる可き南洲とは、最初の十年に於て死去せり。春畝先生、屢謹厚の演説を爲して、拮据、維新先輩の志を繼がんとすと言はれたり。斯の如くして日月獨り歩み、明治聖世の第三十年に到着することを了せりと雖ども、維新の事業は遂に其の三一をだに成就せず。密かに志士をして慨然として其の出來損なひに歎ぜしむるは、誰の責ぞ。

維新以來、天下の人心をして甘露を望むが如く慕はしめたる『公議輿論』なるものの眞味は如何なりしぞ、數ば其の調理を易へて、幾度か其の風味を試みたるの今、公議輿論の賢明は、抑も何程の價値あるものと知れたるぞ。

嘗ては切りに責任內閣を叫呼せし族も、今は少こしく其の調を弱めたるが如し。其の理想の變ぜしか、其の聽客のくたびれたるか、吾人之を知らず。只だ知る所のものは『責任內閣』なる聲の少しく陳腐となりたること是也。惟ふに、聰明なる智者は旣に悟了しつらん、彼れ歷代の幕府は實は責任內閣なりき。其の交も相替りたるは即ち責任內閣の交迭せしものなりきと。豈に圖らんや、事を一々綸旨に出るとして、万機悉皆御親裁に由ると披露する人の必らずしも大勤王家ならざりしことを。

四

維新事業のカナンの地たる國會にして現在の如くば、切めては、選擧法の改正位ひは本年に於て大いに論ぜらる可き筈なるに、其論未だ起らず。人心すでに國會を離るゝものゝ如し。果して然らば、明治維新の改革が、三十年間に買ひ得たる所は、何ものぞ。仔細に觀考するの人にとりては、中夜煩悶して、曉に徹して尙ほ恨思の盡きざるならん。

たとひ、政治上に於て失望することありとも、經濟に於て益することあらば、人心尙ほ得意なるべし、凡そ民間近年の富の增加は顯著なることにて、誰か亦た物質上の進歩を疑ふものあらんや。左れど、經濟上に於ける苦樂の感覺は、必らずしも物の增減にあらずして、物に對する餘裕の增減にあり。百圓の出入を分度として十圓の純益に滿足したるものが、一朝、氣驕り望增して、千圓の出入に百圓の純益を期望したらんときは、たとひ十圓に數倍せる數十圓の收入ありとも滿足せざる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

可し。彼は必らず十圓の收入を得たらんときよりも不平なるべし。今の經濟界の現象は即ち是也。一朝戰勝の夢に耽りて事業勃興し、株熱昂進して、何人も俄に大に益せざるものなし。既に何人も大に益して其益をもて更に興業せり。全産を傾けて手一杯に投機の事に從ひ、大勢後より崩れて政治上の失敗續々到來し、物價上り、株券下り、家產知らざる間に減却するの今に於ては、たとひ其の實價の戰爭以前に優るありとも、現在の比較に於て巨多の痛苦を感ずべきは、當然也。經濟界の人心の萎微豈に亦た他あらんや。

此に至りて、歷史眼あるものは、奇異なる演劇の再ひ幕を開きつつあるを見るべし。德川氏の幕府、時勢の進運によりて到底政費を維持しがたく、聲望而も落ちて群小を御する能はず、則ち、空しく征長の軍を起して、翻つて他日小藩を押潰すの威信を買はんとせり。豈計らんや、戰後の經營期圖に外れ、國庫いよ〳〵空乏して、巨多の不足を塡充するに如何んともすると能はざりき。唯だ有り遺されたる一策は、外債を募るの外なく、只管ら佛蘭西の借金をのみ當にして、之も亦た俄然として外れ、官兵の未だ迫らざるに既に内より之を明け渡す可き形勢とはなりぬ。識者試みに晚近三四年の大勢に比較し、其の赴く所の酷似するに歎せざるを得ざる乎。

人の多年期望したる藩閥の城壁は、既に破られたるに非ずや。幾多の人才先生も既に登用せられたるに非ずや。而して尙ほ人心の毫も新鮮に感ぜざるは何の故ぞ。聞ならく、第二回の人才登用も亦た近きにあらんと、而して、人聞きて譽とせず、自己も亦た懌ばざるが如きは何の故ぞ。嗚呼夫れ明治政府は既に末路に就けり。あらゆる器關、逆境に處して、人心皆な萎微せり。今の時に際して大に爲す有るとを得ざるは、素より其數なり、誰か近眼、方今の當局を責むるとを知りて、その今日に至らしめたるの元罪(豈に元勳ならんや)を責むるとを知らざるや。

憐れむべし、志士此の渦中に悶えて切りに憂ひ、再び法制空理の改革を案じて、此の難局を治せんとす。嗚呼何んぞ更に一番の猛省なきや。大道、古へよりあり、舊政、眼前に遺る、殷鑑遠きにあらず、活用豈に他の故ならんや。若し熟慮細心して大いに念し、審らかに此の勢を利導して能く第二維

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新の功業を成さんとするものあらば、請ふ希はくは、其の說を聞かん哉。

女學

高等女子教育の必要を論じ併せて其の反對說に答ふ

成瀨仁藏

今や、多事多望の日本帝國の代表者たる諸君の前途には政治問題や社會問題や其他種々の時事問題や國家百年の計畫など實に澤山の問題が山の如くに橫つて居り升。諸君は凡て此等の問題や經營に付て討議研究を凝され維れ日も足らずと云ふ有樣で御座りますが此等の問題の中には確かに教育問題が這入つて居らうと存じ升。此の教育問題は貨幣問題のごとく築港問題のごとく國防問題のごとく外交問題のごとく殖產商業等に關する問題のごとくに焦眉の急務と云ふべき問題でなくズツト後廻はしにしてもよい問題でありませう乎。私は斷じてさうでないと考へます。如何となれば公平無私の心を以て全般の問題を攻究するに當りまして段々煎じ詰めまするを終局は必ず教育問題に歸着せざるを得ぬのであります。善きも惡きも其原を糺れますと何事も多くは教育の善惡に因ります。支那に勝つた、支那に負けたと申しましても其功過は必ず教育に歸します、社會が腐敗する、風俗が紊亂すると云つても其の本は心にあります、家庭にあります、遺傳にあります。其の心、其の遺傳、其の家庭の善惡は多くは教育より來るもので決して自然のみではありません。我兵の体力が弱い、躰軀が小さい背が低い、之れは如何にすべきか、教育に依るより外仕方は御座りませぬ。國が貧乏だ、何如にして之を救ふべきか、大に殖產工業を起し、大に商業を營むべきでありますが、之を起し之を營むには智識が必用です。然るに智識を與ふるものも亦矢張教育です、勿論之れは私の喋々するまでもありませぬ。この重要なる教育問題は早晚必ず社會に起るべきであります、否既に起りつゝあるのであります、既に其の徵候が見えて居ります。之れを要しまするに教育は實に國家の盛衰消長する所以の基礎であります。一躰國家の滅亡する所以のものに二つの原因があります。一つは外部より來るもので他の一つは內部より發するもので御座ります。外部より來るものは兵力でありますから、亦兵力を以て之を防ぐ事が出來ますが、內部より發するものは其發するや隱微の間に徐々として發します、恰かも深夜熟睡中洪水に襲るゝ樣でありまして最も油斷のならぬ大敵であります。强敵であります。而して此强大な敵を防ぐものは教育の力で御座ります。教育はたゞ之れを既發の後に防ぐのみではありません、まだ敵の起らぬ前より之れを防ぐものであります只に之を豫防するのみでもありません、國家をして益健全强固の生長を遂げさするもので御座ります。故に古今東西の區別なく教育の振ふ國は榮え教育の衰ふる國は衰微して居ります。ペルシヤが往古西亞の天に雄飛したるのは乘馬に巧に弓術に長け虛言を吐かぬといふ教育主義が雄飛させたのである。グリースがマラソンの役で彼のペルシヤの大敵を歐洲の天地から打ち拂ふたのは希臘の尙武主義教育が打ち拂はせたのである、殊に女子教育が有力のものでありました。母親が其子の出陣の砌りに楯を與へて「敵を殺すか然らざれば自ら之れに乘りて歸れ」と命ぜしが如きは其一例で御座ります。即ち此尙武的精神を先づ第一に婦人に吹き込んだ。羅馬に於ても尙武教育の旺盛を極めた時代はローマ帝國膨脹の時代でありました。我國でもそうであります德川幕府の隆盛を極めたるも代々の將軍が教育を尊重奬勵したからで御座ります。斯樣に國家の興るのは教育の振ふによりますが其亡ぶるのも亦教育によります。德川幕府の亡びたるも、ギリシヤ、ローマの亡びたるも、一ッ教育の道に過まつたからで御座り升。故に今日に於きましても競て教育を盛にするといふは歐州諸國の實況で御座ります。佛國の敗軍獨乙の勝利は教育の勝敗だといふ程になつてをりまして、其後佛國は大に教育、殊に女子教育にも着眼する樣に立ち至りました。

然るに我國の教育の現狀は如何でありますか。振てをりますか、完備してをりますか、普及してありますか、今日の有樣で安心して居つて宜敷う御座りますか。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

一躰國民を教育してをりますものが四あります、天然と社會と家庭と學校とでありますが、天然は國民を教育するに有力なる感化力でありますが、是は人爲を以て自由に變更する事が出來ませんから論外と致しまして、先づ學校教育の現狀より考まするに如何で御座りますか。人口凡そ四千五百万の我國と、人口凡そ六千万の北米合衆國との狀態を比較して見ますに、日本には大學が二校と高等學校が六校で而も此二つの大學と六つの高等學校は無論女子に入學を許してをりません。本邦で女子に高等の教育を授けて居るのは女子高等師範學校のみであります。其内專門教育を施すものは只一校のみです而して米國に於きましては大學と稱するものは三百五十七校で、其中女子に入學を許すものは實は二百三十七校で、又東部には純粋の女子大學が九校もあります。又大學女生の總數は、四萬二千六百六十三人で、男生六十に女生四十の割であります。我國では大學に女學生といふものは勿論ありませんが專門學校にをきましては男生九十九人で女生一人であります。中學校にては我國では男生九十人に女生十人でありますが、米國では公私平均で男生四十四五に、女生五十四五であります。本邦の師範學校では男生九十一人に女生九人でありますが、米國では男子十七人に女生八十三人であります。普及すべき普通教育に至つても學齡兒童就學兒童との比例は六才と四十であります、故に百に付六十はいろはのいの字も識らぬ國民を造てをるありさまです。而して小學正教員の不足は現今二萬人といふ多數であります。之れはほんの大略でありますが之れでも本邦教育の上進と普及の情況は大底分からうと思ひます。加之學校教員の精神といふものが鈍れてをります。學校といふものは智識は與へるが人物は却て惡しくするものだと思ふ樣になつてをります。目下流行の學校騷動といふものも詮ずる處教育の精神が鈍れてをるから來るもので御座います。併し學校教育の不首尾といふものを悉く學校教育の過失の樣にいふ事が流行つてをりますが、其過半は家庭も其責に當らねばならぬ遺傳といふものは個人の發達を妨げ、又は促がすものでありますが、其の由て來る處は主として家庭にあります。故に遺傳からいふても家庭の善惡は大切なものであります。又小兒教育より申しますれば家庭は其全權を掌握して居ります。或る西洋の教育家が「小兒の教育は生前二十五年換言すれば父母の教育より始めざるべからず」といふたのは遺傳の大切な事をいふたものであります。又本邦で「三歲兒の精神百まで」といふのは家庭教育の必要をいふたものであります。また小兒が學校教育を受くる樣になりましても、なほ家庭教育は教育の半部を負擔してをります。然るに小供の教育を學校に一任して出來るものと思ひ、若し小兒の品行が治まらぬときは罪を學校教育者に歸する事を知つて家庭の大いに之れを妨害して居ることを顧みないのは誤りの甚だしきものであります。近衞公爵も御述べでござりましたが、教育に從事して居る者が一番困つて居るものは家庭教育の不完全と云ふ事である。幾ら學校で氣を揉みても家庭が惡しければドウしても教育する事は出來ない。それで私は今日の教育界にある弊害と云ふものは其の大部分は家庭に其罪を歸せねばならぬ。それで今日の現狀はドウしても家庭教育が完備した、家庭教育が振ふて居ると云ふ事は言はれぬと思ひます。

次に教育は學校と家庭のみでは出來ぬ、是非とも社會教育の加勢を得ればなりませぬ。――社會が善くなければ本當の教育は出來ない。天然教育と、家庭教育と、學校教育と、社會教育との四つが揃はれば人を作る事は出來ない。然るに目下の社會は教育を妨だけてをるではありませぬか。青年を腐敗に導びく所の機關は全備して居る、青年を鈍らす所の勢力は振ふて居るが、社會の青年を教育し國民を教育する所の點に至つては、亂れて居るばかりではなく寔に眠つて居ります。それは私が此で申す必要はないと思ひます。町を歩きて直ぐに青年の耳に入り、青年の心に這入るものは何かと云ひますと、如何なる音樂が何處にも聞えて居るか、其他演劇、文學奢侈遊佚遊惰の惡習、輕薄懦弱射利奔名の弊風は如何であると云ひますと、社會の中で人々を教育する所の機關が備はらずして、却て之れに反對の勢力は打揃ふて蠟の如き柔き腦髓に不道德の印を押して居りはせぬか。然るに之に反抗すべき社會教育の勢力は如何でありますか。之を亞米利加の社會教育に比較すれば、我國は大に之を怠つて居ると思ふ。是は一々此で申す事は出來ませぬが亞米利加で、男女共高等の教育を受けたる者は社會教育に目を着けざる者はない。色々な所に住居を定めて教育の無い物と交際を求めて社會の勢力の及ぶことを望んで居る。大學殖民等であります。又通俗講談に非常に金を掛ける、然るに吾が國にては大學通俗講談會のみでしかも之も未だ社會的教育力と成てをらぬではありませぬか。又米國にては音樂といひ美術といひ大に教育的勢力を振ふてをります。其他倶樂部とか一々、其例を擧げたいでありますが、時

間もありませぬから申す事が出來ませぬが、是れ皆な國民教育をしやうと思ふならば社會に大に注意を要する譯であらうと思ひます。然るに吾が國にては社會的教育は殆ど緒についてもなりませぬ。其の勢力となるべきものは皆敵となりてをる有様でござります。此の様に先づ外形から見て私共は我國の教育は振ふて居る、是れで宜しい是れならば我が日本國民を養成するに足るとはドウしても思はれぬ。

此の様に振はぬと云ふ事色々足らぬ所があると云ふものは此に一の原因があるです。是は教育の精神が鈍つて居る、即ち精神がない、教育が機械的に流れ、形式的に陥りて居りますのも、詮ずる處教育の精神が鈍つて居るからで御座ります。是は社會にも家庭にも學校にも教育と云ふ精神が鈍つて居るからであらうと考へます。私はケンブリッヂに暫く居りましてヘネスと云ふハーヴァード大學の教育學教授に交際致しましたが、ケンブリッヂは亞米利加で一番教育の盛んなる處でござります。然るに自分の娘が十六七になつて居るに學校に遣らぬ。なぜ遣らぬかと云ふに、學校教育を不完全と思つて居る、それで夫婦かゝつて家でやらせて居る、學校へ遣れば樂なのに、時の無いのに自分で教育して居るものは、それだけ教育と云ふ事を重んじて居るのでござります。我國は如何でござります。兩親が子女を學校へ遣れば教育は出來るものと思つて居るが、教育は學校にのみ任せて決して出來るものでない。家庭で出來るのである、學校は唯々家庭教育を補なふものである。然るに家庭教育を面倒に思つて構はずして、唯々學校に任せて置けば出來るものと思ふは大變な間違である。其他亞米利加の小學校でも大學校でも廻つて視ると、必ず一の新説を聞きます。新發明を見ることが出來ます。其れはどの大學に行つても教育學の講座を設けて深く教育學を研究し常に新發明を爲しつゝある、之は何の大學にもある。然るに我が帝國大學に於ては文科に於て一の教育學の講座がございましたが、故日高文學士が死なれて其の後とを繼ぐ者がない。廣い日本に一の教育學の椅子を保つて行く事が出來ぬ。又必要のないとは如何に教育思想に冷淡であると云ふ事が分つて居らぬかと思ふ。色々の事業の中に人に一番見えぬは教育である、教育はドウでも宜い、教育家に任して置けば我輩の知る所でないと云ふ様な教育の精神が鈍れて居る。故に教育が振ふて來ぬのである、精神のない身躰は死んだ身躰である、精神のない教育は骸骨同様と言はればならぬ。

それで私が日頃感じて居りますのは、ドウしても我帝國を偉大にし、國民を育つる上に於ては教育の精神を社會全般に吹込まぬ以上は發達致しませぬ。一般社會に吹込まんと欲せば、是非之を女子に吹込まねばならぬ。然るに女子教育は、如何に待遇されて居るかといふに、一番振はぬは女子教育である、一番人から嫌がられるのも女子教育である。一番人が冷淡にするのも女子教育である。女子教育と云ふ聲を聞さへ人心を寒らしむるといふ有様であります。斯ういふ不遇の有様に陥つて居る、さうして斯ういふ有様を招いたのは一は社會の罪である、又男子の罪である、又一は失敗の罪である、又弊害の罪である。

併し弊害があればある程益之に從事せねばならぬではありませぬか、不完全であればある程愈々之に熱中せねばならぬではありませんか。然るに失敗に辟易し、弊害を恐れて、女子教育を擯斥し、又は之を冷遇するのは。目下一般の傾向ではありませんか、是れ實に遺憾千万なるのみでありません、實に國家の一大不幸であります。之が私共が日本女子大學校を創設せんとする所以であります。之れに依つて教育の精神を社會一般に吹き込み之に依て女子教育の弊害を矯正し、之に依て女子教育の普及改善を計り、之に依て女子教育の模範を造り、之れに依て家庭の刷新を促がし、之に依て社會の風習を改め、之れに依て教育全躰の發達を助けんと思ひます。之れ日本女子大學校を創設する所以であります、目的でありますが、玆に其方針と方法を充分に述べたいと思ひますが、到底僅少の時間では述べ盡す事は出來ませんから、今日は只日本女子大學校といふ新らしき名を公に到しますに付き、直ちに諸君の心頭に浮び來る疑問に答へる丈に致したいと存じます。

(第一の疑問)は女子に大學が必要なるやといふ事でありませう。今女子大學の盛なる英國にだきましても、高等教育を授けんとするや、反對論者に「高等女子教育を主張するは神に對しては罪悪、政府に對しては叛逆」だと申しました。米國にても今より二十有餘年前女子大學を設けんとする際に、世人は嘲弄して「女子の爲めに大學を設くるは恰も猫に學校を設けてやるのと同一だ」と申しましたが今日は最早こういふ説を吐くものはなかろうと思ひますから、玆に辯ずるとは止めませう。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

(第二の疑問)は教育の順序を誤つて居らぬかといふ論でございますが、女子大學校と云ッても帝國大學に比する樣なものではございませぬ。又米國の樣にせねばならぬと云ふのでは素よりございませぬ。今日は女子教育が尙ほ不完全であるから、モウ少し高進せしめ之を完備に至らせたいと云ふのである。徒らに學科のみを高めうといふのでもありません。併し學理を擇はぬと云ふのでもありませぬ、學理も大切なものと思ひます、看病にしても、料理にしても、家庭の事にしても精神上の事にしても十分改善しやうと思へば學理も高める必要がございます、けれども順序を誤つて教育を施す積りではございませぬ。本邦現時の女子の躰力智力に應じて、順次に高進するの策を取る積りであります。

(第三の疑問)は女子大學は初等教育の妨げにならぬかと云ふ說が起るのでござりますが、私は之とは丸で反對に考へるものであります。大學校を起すのは、女子教育が普及せぬ故、之を起して普及を計らうと云ふのでございます。我國でも最初に初等教育が出來ぬからと言つて大學校を起さなかつたならば、今日の如く初等教育は普及せぬ。亞米利加でも大學校が多く起つて、初等教育が發達した事です。 其理由は多くありますけれども、是も略して漸くこゝに到します。

(第四の疑問)は女子大學校はまだ早い其時機が來ないと云ふ事でございます。是も他の國の歷史に就て考へて見ますに同じ事である。さう思ふは當然である。今から二十年前マサチユセッツに於て、スミス女子大學校を起す時に反對が有りました。今でも此の大學の總理シーリーと云ふ人が、二十年前、即ち該大學を起す時に、二十年間に四十人丈けの大學生を得るに至れば、滿足だと思つて居つた。此のシーリー氏は、二十年前に之を必要と見認めて着手したが、二十年後の今日現在生八百人以上居る。卒業したる者は何千人であるか實に多數であります。然ればその時に、それ丈けの必要があつたのでございます。是が必要になつてから着手しても間に合はぬ。大學は徐々に成長せしめればならぬから、今日より二十年三十年五十年先きの事を考へて着手せねばならぬ。急に其必要があるからと言つて遣つても役に立たぬであります。且つ現時高等女學校を卒業し、其より進むの道なきに苦しむものを隨分見當ります。故に早過ぎる事はないと思ふ。

(第五の反對)は學校が是迄の程度ですら、女が生意氣になる、しかるにいま是より尙ほ高くして、尙ほ生意氣になれば、ドウするかと云ふ事でありませう。學問が女を生意氣にすると云ふものは、無實の罪を教育に歸するものである。成程今日の女生は生意氣なるが多いが、 是は教育の罪にあらずして、 教育法の罪である、又教育者の罪である。此頃或る學者先生に面會致しましたが、其時先生は女子教育は反對である、小學校でよい、それから上に行くと生意氣になるといはれましたが、私は先生の樣な高慢な人に教育を受くれば、男でも生意氣になると言ひたかつたでございます。さう云ふ人に教育を受くれば、生意氣になりませうが教育は人を謙遜にするものである。亞米利加は婦人の權利の盛んな所で、女の活潑な處惡くいへば、女の粗暴な所であるけれども、此粗暴を直すは教育である。亞米利加を彼方此方へ行くと、女は粗暴である、けれども大學校に這入つて學んだ婦人の家庭に行けば、女らしくて惡るいものを退けて仕舞ふた善い女がある。教育が高慢心を造るにあらず、教育法と教育者の惡るいのでございませう。それと生半着の教育をすれば、男でも生意氣になる。ホントに學問の出來た人は謙遜である、生意氣は半學問の熟せぬ書生にある。人間は智識が高まるか、地位が進めば謙遜で柔和になる心が淸くなる、小役人より大臣になれば謙遜である、亞米利加でも總理とか校長とか云ふ樣な人は、柔かく小供らしい。進む程謙遜のものでございます。私は高等教育をしてホントに女を造つたならば、ホントに女に高い智識を與へれば、さういふ弊を矯める事は出來ると思ふ。今日女學校の弊は、教育を與へずして直すことは出來ぬが、教育を與へて直すことは出來ると思ふ。

(第六の疑問)は德育法はさうぢやろうが主義はどふだか、純粹の日本主義か、歐米主義かと云ふ說があらうと思ふ。私は內を主にして外を客にし、武士風家庭の精英を標的と致して、之を補ふに外國の長所を以てするのです。即ち忠孝節義の如き日本固有の美德は、益々之を發達進化せしめ、同時に諸種の缺點は之を矯正し、萬國の最も秀でたるを取りて、我國のものにしたいと云ふ考へです。

(第七の疑問)は學校教育は人情に疏くなる、世に處する事を知らぬやうになる、交際が下手になると云ふ評でありますが、是もホントでございます。是も寄宿舍で從ふて居るのでございます。寄宿舍を改良せねばならぬ、今日ある者は兵營的である、監獄的である、故に寄宿舍を家庭の樣にせねばならぬ、人は溫かい內に育てれば、 溫かい心を持つ者にならぬ。 今回は寄宿舍にては一軒を家族制に改めまして、數多の別戶寄宿舍を設けて、各戶を一家族と見做し、全舍を一族親類と見做し、家具裝飾等本邦家庭の善良なるものを摸範と致し、日々家庭の生涯を營む樣にしたいと思ひます、然れば掃除もせねばならず、お客の相手もせねばならず、面倒も見ねばならず。万事家庭の境遇に遠からぬやうにせねばなりませぬですから、中の仕組も家庭の樣にして、母の樣な舍監を置て、其中に家庭の樣な精神を吹込みたいと思ひます。

(第八の疑問)はそれはよいが、さう云ふ舍監が在るかといふのでありますが、是が素より我國で一番困ることです。けれども私は此處でさういふ人を造らねばならぬと思ふ。ドウも善い母がない、善い妻がない、善い教師がない、故に此の學校の必要が起るのであります。併しながらさう善い教師は皆無かといふと、さうでもないから今稀にある人物を集めて、追々此の目的を達するの法はあると思ひますが、是も時が足らぬから、今日は略しやうと思ひます。是迄に八ッの疑問に答へたが、之は精神上の疑問ですが、尙ほ身體上に關する疑問が出ると思ひ升。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

其は、女に教育を授ければ、女を弱くすると云ふ説があります。私は之に反對の考を持てをります、日本人は弱いである、小さい、是は丈夫にならればならぬから、高等教育をせればならぬ。成程女學校の生徒は弱いさか、脊が屈んで居るさいふ統計を見る。男子の大學校もさうである、大學校に這入さ段々弱くなる、量目が減ッて來て弱くなるさ云、昔から學問で死んだ者が隨分有る。亞米利加でもさうであつた。クラークさいふ人の書物にも、多くの女子教育の弊か擧げてあるけれども、今日は米國にては丸で違ッて居る。今日は大變丈夫になつて、學校に這入つてから卒業して出る迄には、肺量が增て居る。身體が重くなつて居る。又學校外の婦人よりも學校内にある婦人が健康である。男子もさうで大學生徒は身體が重くなつて居る。それは體育の奬勵さ體育學があつて、大學生徒も兵隊や力士の身體を鍛ふやふに遣つて居る。毎日統計を取つて遣つて居る。女子の方もさうである。最も一は體育學さ云ふものが起つた。是は昔から國の榮えた所は、グリシヤでも羅馬獨逸でも英國でも體育を貴んで居る。又體育學が盛んに行はれて居る。是は醫學さ生理さ解剖から成つて居るもので、醫學の智識を女子に與へればならぬ、又國民に與へればならぬ。是が日本女子大學校に體育部を置きた所以であります。體育の教師を拵へて、之を諸方の女學校へやつて、此體育の精神を起したいさ云ふ考へでござります。英國の諺に、人は三十に成れば醫者か馬鹿かさ言つて居る。米國にては年二十に成て、身體自衛の道を知らない婦人は、馬鹿ださ申しますが、自衛の習慣さ知識さは、女子の身體を健全にし、道德を健全にし、かつ小兒を健全にするに是非欠くことができぬ故に、日本女子に醫學の思想を與へればならぬ。日本の女に是非教へればならぬ事が澤山有る。又之を實行させればなりませぬ故に、女學生には時間の許す限り自炊又は酒掃の勞を取らせて、勞働に習はしめ勞働は神聖なるものである、决して嫌惡すべきものでない、輕蔑すべきものでないさいふとを知らせ、かつ身體さ心靈をも鍛はせればなりませぬ。それで高等教育を主唱するは、身體を惡くするにあらずして、之をドウカ取戻さうさ云ふ企てでござります。

女學生の集合

次郎

女三人集れば姦ましと云ひて、多く集るは好ましからぬことに言ひなし、實際は多勢集合することなど曾て無きことなりし。況してや、朝夕ともに住居するに女の集合せしことなどは、我國に例しなきことにて、只だ御殿には之に似たる趣もありつれど、一々別に部屋を與へられて群居すると云ふことなし。申さば一の長屋に別居するに左も似たり。方今、女學生が一つの塾舍に合宿するにひとしき類例は、我國文明となりてより此方、千古未曾有の出來事ならん歟。

或人は之をもて西洋に摸倣したることと思ふものもあるべし。此は甚しき誤解なり。今の女學校の仕組は西洋に眞似たる所、多ければ、塾舍の事も亦た西洋に倣ひたることと思ふ族もあるべきが、今の日本の女學校寄宿舍の如くにして女學生の合宿することは、西洋に於ても未だ曾て見ざる所也。左らば亦た之を西洋の風習とも謂ふ可らず。

人往々、西洋の家庭と日本の家庭とを比較して非常の誤解を

爲すとあり。此は主として、家庭の建築法の東西相異なるとを忘るるによる也。西洋にては、一軒の家に數戶分け住ふとも、ちとの不都合を感ずるとなし。然れ、一室一室の仕切り嚴重なれは、單だ鍵を一回轉する丈けにて、彼方此方、明白なる隣家となるとを得べければ也。

左れば、たとひ、一軒建築のうちに戶を分ちて他家の相住ふが如くせざる迄も、一室一室の區切の模樣より言ふときは、宛がら、一室即ち一戶の如くして、戶外は恰かも他家の如し。故に、一家の內に住へる一族にても、銘々、部屋を分有して、其室內を自由の廬となし、玆に勝手に氣樂の動作を爲し、扨て室を出でて、食堂に同もに集まる時、もしくは、客間に互ひに談話するときなどは、半ば他人行儀の禮式をもて、愼しみて相對する也。

之に反し、日本の家屋は、戶、障子、襖のすべて一齊に取はつするを得、一つの室として自由に進入するとの出來まじきものはなし。一軒即ち一戶にして、悉皆、旦那の眼の監督の下に睨まれつつある結構なり。

此故に、西洋の家庭と日本の家庭とを比較するものは、第一に、家屋の建築の相違ふとに着目し、吾か一家は彼の一室に相當し、彼の一家內の交際は、我國の隣家附合に相當す、西洋の家の內の廊下は、我國の庭徑に匹敵すと迄で觀じたるにあらざれば、其の眞情を悉さんと難し、

左れば、女學校の塾舍を比較するに於ても亦た同樣の事情あるを知れ。彼の塾舍は、一室に一人、もしくは二人の女生を容るるのみ。たとひ宏大なる女校にして、幾百の塾舍ありとも、幾百の塾舍皆な各自に一家なるが故に、之を集合合宿すとは言ふべからず。我國の塾舍に於ては、たとひ、廊下と、襖障子との類、たとへ一々に仕切りたりとも、總べて皆な何人によりて、阿時とても、開閉せらるるとを得べし。彼等は實際、幾十百人合宿するにひとし。

夫れ、人如何に愼しみを爲すとも、二六時中、豈に危坐するとを得んや。時には、横になりて、自由に平臥するの安樂をも取りたきもの也。但だ女性たるもの、白晝に於て、平臥を爲すは、如何にも恥かしきとに言ひなし、人前にては之を愼しむととなりたれば、從來人の見る所にて之を犯すものもなかりき。左れど、彼の合宿の女生たるものには、秘密の部屋

とすべきものあるなし、一と度び安樂の動作を爲して初めて人に見られたるときは、ちとの愧恥を感ずべけれど、之を再三にしては、亦た恥づべくもなく、亦た愼しむべきやうもなし。斯の如くして、遂に大抵の人に見らるるも恥ぢざるに至るもの也。凡そ多數合宿の所に住ひせし人の漸くにして、古來制禁したる儀式を破るに慣るるものは、皆な此の邊の由來によりてなり。

夫れ、日本の女學校の塾舍は、其の建築の改まらざる以上、皆な此類の不便を有す。左らば、其の塾舍を全く西洋風の建築とせば、如何んと云ふに、之も亦た可ならず。何んとなれば、西洋風の建築は、立禮に適せしめて、坐禮に適せざるの人に合ふべければ也。之を要するに、日本の現今は、今の西洋にも似ず、古の日本にも似ざる一新の風俗を造りつつあり、而して、男女の學校に於て養成しつつある風俗の如きは、多少、此方向と趣を同うするが如し。左れど、此をもて安んじて用意するとを要めざるは不可也。今の日本女學校の塾舍は、東西千古、類なきものとして、經營辛苦の注意を與へざる可らざるものと知るべし。

情死の辨

さきに透谷、情死を論じて一代を驚かせり。餘韻尙ほ耳底に存して、其事杳として古への如し。凡そ、今の新聞紙に末期を曝らすものは、多くは情死の輕薄なるもの也。或ひは、一時の狂熱により、もしくは、詮方なき無理ずすめによる、江戶以來淨瑠璃、清元の感化著じるしく、比翼連理の打死を粋の譽れと言ひなしたるより、死後の榮譽を友達にほのめかして、若氣の不處存を一時の刃に訴ふるものも亦多し。皆ともに輕薄なるものにあらずや。但だ夫れ、情をもつて死するものは、其死の姿を見めすとなし、ましてや、其の苦衷を告白するとあるべきかは。天地尙ほ知らず、朋友もとより知らず、父母昆弟も亦た知らず、獨り赤心深き處に秘め置きて、慰さめがたき鬱懷を胸中に凝結せしむ。わが顏せ、之を知りてか、日に〳〵蒼白をまし、わが躰、亦た之を覺りてか、月々に瘠せ衰ふ。此地にありては、花の其色を落し、月の其露を滴たらすの外、亦た吾が眞實の懷ひに同情を表するものとてはなし。之れ實に深き情死者の境界に非ずや。此時に當りては、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何等の新聞紙か能く之を報じ、何等の系線かよく其の統計に網羅するとを得んや。茲に無識庵、社會眼をもて情死の統計を示すの本意は稍や之に異なる、眞に只だ經世の一斑のみ。讀む人、試みに凡俗の如何に輕々しき情死に狂ふかを看よ。

情死統計

無識庵主人

主人曰く、情死統計に就て始めて研究の端緒を開かれしは、蓋し吳文聰氏にして實に昨年六月、東京統計協會の定期會に於ける講演を以て嚆矢とすべし。氏當時論じて曰く

男女相思の情切なるも人寰の境遇、永く同室偕老の契を結ぶを許さず、是に於て乎心志孱弱なる輩は情切迫の極現世を厭忌して共死す、世之を情死と云ふ。其痴笑ふに耐へたりと雖、其情亦憫むべき者なきにあらず。抑も情死の事たる本邦の新聞紙上には毎旬現はるゝもの一二にして足らざるなり。而るに余の寡聞なる未だ歐米各國に此類多きを耳にせず。偶々之れあるも眞に稀有の事にして、本邦の如く頻繁ならざるが如し。是れ歐米の如く事々取て以て研究の材料となさゞるなき地に於て、未だ情死に就て云爲せしなき所以ならん。之に反して本邦の如きは情死を以て、殆ど普通の事となし稀有の珍事となす者こそ、反て稀有の事となせり。是れ情死の多きにも拘はらず、官民共に之を特別の事件として研究せざる所以なり。然れども此事たる世人の須く注意すべき要件たり、而るに此等論者は今猶ほ意を此に傾くる者なきは、豈に科學上の怠慢にあらずや。而して人世の事物を觀察するを以て任とせる統計家の、未だ之が研究を試みしとなきは余の大に遺憾とする所なり。本邦に於て情死の多き原因は何れにあるや、余は先つ次の數項を以て確かに之を促す原因ならんと信ずるなり。

一　佛教に輪廻應報の説あると
二　主從は一世夫婦は二世親子は一世と云ふ説行はれ夫婦は此世のみの縁にあらず來世も亦夫婦となるべきものなりとの説あると
三　淨瑠璃に情死又は情死に類似せる歌曲多くありて衆民日夜口之を歌ひ耳之を聞くと
四　演劇に於ても同樣なる狂言多きと

以上の事項、多年の間次第〻に人心に浸潤し、事情少しく切迫すれば、直ちに共死を謀るに至れるにあらざらんや。而して下等蒙昧の輩に在ては、元來思慮淺薄知識狹隘なるを以て、是等情事的共死を以て意氣なり、快事なり、又多少名譽なりと思ひ、均しく死するものなれば、女子と共に死するに若かずとの妄想を有するならん、そは彼の無理情死なるものゝ存することこそ之れがよき證人なり、妄想痴情も此に至りて其極に達せりと云ふべし」と、

主人頃日氏の門を叩き談此事に渉りし節、其蒐集せられし數多の情死票紙を示さる、左の統計は則ち其材料に依りて調製したるものなり、而してこは吳氏の友人某氏の盡力にて蒐集されしものとす。

昨年六月、吳氏の公にせられし統計は、明治二十八年一月より二十九年五月に至るまでに止まりしが、左に示す所は、明治二十八年一月より本年二月に至るまで、二年二ヶ月に渉り、總數五十九回とす。

◎合意不合意

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

總數五十九回の中、無理十二回を除き、合意の情死は四十五回なり、餘の二回は合意無理の別、分明ならず實に合意は無理の四倍を占む。

◎發意

情死の發意は男女何れより之を云ひ出でしや、之を調査せしに左の如し。

	合意四十五回の中	無理十二回の中
男の發意	二二	一一
女の發意	一三	—
相互相談	六	—
不詳	四	一

合意情死に於ては男の發意、女に倍し、無理情死に於ては十二回の中、十一回は男の發意と成り、殆んど全部を占むるの觀あり。

◎其の原因

○添はれぬが爲め世を厭ひて	八
○男（男一ツハ養子にて女一ツは困窮にて）妻子ありて添はれぬが爲め	四
○面目を欠ぎ後悔して	一
○他に緣談出來しが爲め	三
○結婚の許を父母兄に求むれども得ず	三
○犯罪あり且金融出來難き爲め	一
○嫉妒と痴情とより	一
○放蕩困窮の結果	二〇
○嫐繼母に逐はれんとして	一
○女を身受けし離より	一
○女の素人なりし時許婚なりしも女の家沒落して娼妓となり男受け出さんとして成らず	一
○妊娠詮方なくして	二
○女は久しく娼妓となり病身となり越方を思ひて	二
○嫌はれたるが爲め男より無理に	二
○原因不明	九

其原因に放蕩困窮の餘に出づる者、最多數なるを見る蓋し浪費困窮に因るものなり。次は添はれぬが爲め世を厭ひて爲したるもの、是れ多く娼妓との關係なり。次は、男に妻子ありて添はれぬが爲め、是れ亦娼妓との關係なり、次に他に緣談出來しが爲めと、結婚の許を父母兄に求むれども得ざるが爲めとの二者なり。是れは私かに情人を造り、之と添はれざるに基す。次に妊娠詮方なきもの嫌はれたる爲め男より無理に情死したる者等なり。

◎目的を遂せしや

或は合意に、或は無理に情死を企つ、果して其目的を遂せしや否や、之を調査せしに

	合意四十四の中	無理十二の中
双方　死す	十九	三
双方　未遂	十七	五
男死女未遂	四	二
女死男未遂	四	一
不詳		一

情死者の半は死去の目的を達す、其の決意の牢乎たるを表せず無理に於ても兩者相半ばす。

◎職業の別

男に就ては左の如く區別せらる

	合意				無理	
商	九	車夫妓夫	一		商	一
醫學生藥劑師	八	陸軍看護人	一		職人	六
職人	七	學生	一		車夫妓夫	二
農	四	馬丁	一		無職業	一
雇人	四	無職業	一		不詳	二
軍人	四	不詳	四			

之を女に就て見れば左の如し

娼妓	四十二	女中	二
女學生	一	妾	一
農家子女又は妻	四	職人の娘職工	二
雇人	一	藝妓酌婦	三

男の中、最多きは商人にして、次は醫學生藥劑師なり、蓋し醫學生藥劑師に放蕩家多きは、著名の事實とす。次は職人なり。商人は一時の金融に便あり、醫學生の如き婦人に至るまで職業の爲めか人躰の秘密に屬する部面に對しては、頗る平氣、且つ地方より出るものは郷家多少の貯蓄あるもの多く、服裝に至るまで奢侈を極む。職人の如き精神的快樂少なく、一般に肉欲に傾くもの。軍人に情死多きは、年齡にも關する。となれども、是亦精神的快樂に欠け居るが爲め。雇人と農等は其數を均うす。無理情死に於ては、職人多數、合意無理共に合すれば職人を以て情死者の多數とす。女に就て之を見れば、五十六人中、四十二人は娼妓なり、次は農家の子女又は妻にして、次は藝妓酌婦とす。而して無理情死十二回は悉く娼妓なり、其中には子供あるもの二人あり。

◎未婚既婚

男に就て之を調査せしに、左の如し、

	合意	無理
未婚	九	四
既婚	一二	一
不明	二四	七

右既婚者十二人中、八人は子女あり、一人は養子あり、其既婚者の多きは注意すへきとなり、而して子女を有するものは未婚者と半はす。蓋し放蕩者には妻を娶りて治まるもあれど父母の强談により、互に見知らぬ男女の結婚して意氣相投せず、家内に不和絶えざるより、不圖遊蕩し始むれば、益々家庭を厭る如き例少なからず。無理に於ては未婚者多し。

◎死去の方法

如何にして情死せしや、則ち其死去の方法を見るに、

	合意			無理	
刄物	一六	入水	三	刄物	一
毒藥劇藥	一二	縊死	二	毒藥劇藥	一
用藥の上刄物を用ひし者	二	鐵道	一		
仝短銃を用ひし者	一	高所より墮落	一		
仝入水せる者	一	不明	四		
短銃	四				

死去の方法の多數は、刃物にして、次は毒藥劇藥を服用するもの、次は短銃、入水とす、無理情死には、刃物殆んど全部を占む、蓋し男が發意して無理に情死するとなれば、急劇に遂げんとするは勢なり。

◎年齢の區別

年齢	合意情死 男	合意情死 女	無理情死 男	無理情死 女
二十年以下	三	一〇	一	一
二十一年—二十五年	二五	二九	七	一〇
二十六年—三十年	九	三	三	｜
三十年以上	五	一	一	｜
不明	二	二	｜	一
計	四四	四四	一二	一二

年齢は男子は二十一歳以上二十五歳以下のもの、過半を占め、次は二十六歳より三十歳までの者にして、二十歳以下の者少なし。是れ一は生理上と生活の境遇に關すべし。二十歳以下の男子は情欲も發達せず、生活も獨立に非ず、職人にしても雇人にしても、將た商人にしても遊蕩し得べき境遇に立たざるものなり。二十一歳後より二十五歳頃の者は、多少獨立的生活を爲し、仲間同士の金融も付き、且つ情欲の最も激しき時たり。女に於て二十一歳以上二十五歳以下の者多きは、多數は娼妓なるを以て詳かに云ふと能はざれど、普通の婦人なれば十八九歳より二十一二歳までを、過失の多き節となすべし。二十二三歳以上に至りては、容易に痴情に走るものに非ず。右表中には娼妓が多數を占むるとを記するの要あり。無理情死は前述せる如く女は悉く娼妓なれば其年齢に於て二十五歳以下の者、殆んど全部を占むるは、當然なり。蓋し娼妓の如き年齢に於て區別すれば二十五歳以下の者多く、又年齢を重ぬると多きに從ひ、彼等の苦界を脫せんと欲するの念強きが如し。是れ合意情死に於て右年齢の者多き所以なるべし。

◎發作年月の別

情死發作の年月を區別すれば左の如し。

月次	廿八年	二十九年	三十年
一月	三	一	一
二月	三	｜	三
三月	二	一	
四月	一	四	
五月	三	六	
六月	二	二	
七月	三	四	
八月	二	二	
九月	二	一	
十月	二	一	
十一月	五	｜	
十二月	五	｜	

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎發作と晝夜

	合意	無理
晝	二二	四
夜	二三	八
不明	二	

右晝とあるは重もに、早朝なり、則ち早朝か夜晩く起るものとす。無理情死に於ては、夜は晝(朝)に倍す蓋し遊廓に於て無理に爲すとなれば、早朝とは云へ、朝は不便勘からざる譯ならん。自殺の如き夜に多く、人目を憚るの所爲は概して然り。

主人又曰く、統計の後に多少の蛇足を加へたれども、素より此少數の材料に依りて臆斷することを好まされば、唯現はれたる範圍に於て、少しく説明したるのみ、眞に蛇足に外ならず。自今此の如き材料を數多蒐集して國別にし、地方の人情風俗照し合せ、詳細の統計を造るに至らば、之に依て其病源の存する所を知り、之を根治するの運に至らん。吾人は此の如き方法により幾多の材料を蒐集し、之を研究せんとを望む者なり。

敎育

一國の文政

凡そ一國の文政に任ぜんとするものは、特に文的思慮を附加するの外は、純平たる天下經營の抱負なくんばある可らず。甚だしきは、文政の爲に費やすべき國費の增減をもて、直ちに當時の文政の是非を評せんとするものあり。抑も、文相は、其國費を國庫より分與せらるゝものにあらずして、實は國庫の內よりして文政に相應の額を給附すべきもの也。文相はもと文部の大臣たる可らずして、閣內の大臣たるべきものなれば也。

一國に數人の大臣あり、同もに協議して國政を料理す、但だ各、分擔する所ありて別自に專門を分つありと雖ども、之によりて一部門に多く屬するにはあらず、依然として閣中に同じく列すべき國務大臣なり。

文相先づ此の氣慨なく、世人の之を見る亦た此の理想なきに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

及んで、一國の文政大に下落す。夫れ、國民の文的開發に執るべきの要務、豈に啻だ所云る學校教育の事のみならんや。あらゆる國民を感化すべき惣ての器關は、かの文的開發を憂ふるもの、慈眼に映じて、皆冲々思慮せらる可き價値あるものにあらずや。

文相或ひは之に任せず、天下亦た之を求めず。區々たる學校の監理をもて能事畢れりとなす。文政の區域も亦た狹い哉。嗚呼、何んぞ抱負の憫小なるや。

抑も、學校は感化力の尤も微弱なるもの也。もし文的教育の事をもて十とせば、學校の得べき力點は其の二乃至三に過ぎざるべし。他のもろもろの有力なる感化は、遂に何人の經營と、何等の利導とを得てか、國民改善の用に供せらるゝことを得るや。

近頃、幾多の教育論を聞かざるにあらず。多くは是れ小節目の立策のみ。其事の成否、豈に大躰に幾何の影響かあらんや。但だ夫れ、日本の山川に鑑み、古來の歴史に鑑み、外交に鑑み、財政に鑑み、幾多現在の風潮に鑑みて、以て一大文政の巨綱を提げんとするの人何處にありや。吾人は久しく饑渇して、其の説を求むるもの也。

内地雑居後の國民教育

曲浦子

條約既に改正せられて内地雑居、二三年の後に來らんとするの今日は、雑居の我社會に及ぼすべき影響の著しきものあるべしとて、公私之が準備を心掛けつゝありて、中にも教育上には尠からぬ影響をぞ蒙るべきなりとて、當局者の之に對する調査委員を擧ぐるあれば、また宣教師派諸學校の取調べをなすあり。而して内地雑居後の國民教育果して如何にすべきやとは、多くの教育者の思慮を煩はせる處にして、之が爲九州日々新聞の如きは賞を懸けて、此問題に對するの論文を募集したり。

内地雑居後の國民教育果して如何にすべきや、人は知らず、吾人は斷じて其憂ふるに足らざるをいふものなり。而も之を掛念とするの人士は、多く國民教育なる字義に拘泥し、其迷妄に陥りて、東家西家、外邦人と居を並ぶるの曉に至らば、

若しよく大和心といふものに轡を懸け、手綱を附けて、之をして逸せしめざらんやうに注意せざれば、こは國家の爲めに由々しき大事とならんとの憂を抱くものなり。彼内地雜居後の國民教育を囂々するの人の胸中や、極言すれば此配慮は啻に杞人天の落つるを憂ふるの憂に等し。且又彼等は餘りに外形を思ふに過ぎたり。彼等は外人と軒を並べたらんには、其風習、思想の、我國民の風習思想を感化すると頗る大なるものあるを豫想するものなりと雖も、是れ豈に雜居の日を期するものならんや。開國以來、外人縱横に内地を往來し、三都五港、彼等の別世界を形成するものあると共に、海外の文物思想續々として輸入し來り、我また喜んで之を迎へ、人には制限あれども、此等は禁制なしに、我邦人の文物思想と雜居親和し、かくて我の思想風習は、劇甚なる變動を經たり。我社會の過半は海外の思想文化を以て改造せられたる者なり。されば内地雜居の名未だあらずと雖も、其實は既に三十年間の久しきに亘りて、我邦に在るものを、今更内地雜居となりたりとて、何の目覺しきとありとも思はれず。二三年の後に、權兵衞の隣に、アンクル、サム住居し、熊吉の向ふにヂョン、ブール寄留せんとも、之によりて權兵衞熊吉は、遂にチョン髷を斬りて帽子を戴き、日傘を廢して蝙蝠傘を用ふるに至りたる程の大なる影響を蒙るとなかるべく、また山里の眞中に西洋造の郡役所が新築されたる時程には驚くとなかるべし。」

且や内地雜居の禁、解けたるの後に、外人續々として國中に入り來り、邦人と伍して商業を營み、勞働をなすべしと思ふは、頗る豫想に過ぎたり。而も我國土の價値を買ひ被りたるものなり。彼時來るも何程の外人を我國に増加すべきや、また而も便利なる居留地を去りて、何程のものが、不便なる内地に住居すべきや。加之今日現に宣教、教育の爲めに五港二都の居留地以外に居寓するものありと雖も、彼等が内人と地を界し、軒を接するによりて、幾許の影響を我に加へたりや。之を觀すれば、例令内地雜居後、我と居を接するの外人の數増加すとも、格別の出來事ありとも思はれざるなり。彼輕井澤の地は數年以來毎夏暑を此處に避くるの外國人、其の數二三百の上に出でて、爰に一別天地をなすの觀ありと雖も、之が爲に其地方人民に及ぼしたるの影響は、外國人は金を澤山に所持せるもの、彼等に家を貸せば、家賃が高く取れる位の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

智慧は附けて、古來中仙道の宿場にて人氣の悪き上に、一層の人氣を悪くしたる事はあれども、外人は何處迄も外人なり、彼等の顏を見たればとて、其地人民が、文物思想を左右せらるゝこと殆どこれ無しと雖も、其子女等は、却て小學校にて盛んに泰西的の文化を汲入しつゝあるなり。さればまた毎度此處に演出する盛大の内地雜居、日本人中に西洋人が交り居るといふよりも、西洋人中に日本人の交り居るといはん方適切なるが如くに、また其西洋人と較ぶれば遙に劣等なる山中の人民が其地方數年來の内地雜居の爲めに、今更のやうに國民教育を如何にすべきとの問題を解釋するの必要を有せず。

内地雜居後となりたればとて、二都五港の地を離れて、内地に住居するの外人は、今日より其數を增加することの多かるべき筈なく、從つて、其影響の國民に及ぼすもの甚だ大なるものあらじ。また二都五港に外人の數增加したればとて、業に已に多くの西洋人を見、著大の西洋化をなしたる都人士の、何んぞこれが爲に、俄に驚くべき影響を蒙るとあらんや。今それ外人と軒を並ふるに至らんとするの内地雜居の影響の如何に大なるものあればとて、到底開國以來制限なく輸入せられて、全國津々浦々まで普及したる、海外の文物思想の影響に比すべきに非らず。况んや來るべき内地雜居の結果の案外に些小なるべきに於てをや。されば、今に當りて内地雜居後の國民教育如何といふは、目に見ゆる形を思ふに過ぎて、其眞相を察するに迂なりといはざるべからず。故に曰く、内地雜居後の國民教育は、特に慮るに足らず、たゞ道の由るべきによりて孜孜進歩するあらんのみと。

然るにかの偏狹排他的にして、事々に忠義愛國をいふ所謂國家論者の徒が、内地雜居後の國民教育の事、大に勘考せざるべからずとなすは、要するに外人を冦讎と見て、其侵入に備るの堡砦を築かんとするものたり。彼戰後の教育の忠義愛國をいふの弊や、鎮守の祭日に、小學校教員は生徒を率ゐて其神社に參拜すべしと訓令するの愚をなすものあるに至りたるあり。これより推せば彼偏狹者流の所謂内地雜居後の國民教育なるものは、國民を教へて何等の守舊頑愚を學ばしむるものとなるやも計り難し。如斯くならんに於ては、彼等が國民教育はこれ國を開いて自由に外人を迎へ、世界文明の舞臺に多々益々、其伎量を振はんとするの我邦の國是と相反せり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

蓋し彼等偏狹者流や、內地雜居の結果を豫想すると大なるに過ぎて、之を怖るゝものにして、會々以て其膽の小なるを見るに足らんのみ。

◎國家說の弊爰に至る矣

茨城縣にては、此迄鎭守祭の休日には、學校生徒一般に休業せしむるのみなりしが、これにては國民教育上不都合なればとて、同縣知事小野田元凞は縣令を發して自今學校所在地の鎭守祭日には小學校教員は生徒を率ゐて其神社に參拜すべしと訓し、また官國幣、縣鄕村社祠官を召集して、これに關する取扱ひ方を調査せしめたりといふ。鎭守祭日の休業は兎も角も、同日には、教員生徒を率ゐて其神社に參拜すべし、これ國民教育上の大事なりとなすに至つては、愚も亦甚だしといふべし。蓋しこれ國民教育なる語に惑ふて此に至れるならん。抑もまた頑固なる水戶人の機嫌を取らんが爲めに、當局者は甘んじて此愚をなせるものか。此れ實に近時教育界の一奇談、偏狹なる國家說の弊害の結べる果なり。されどこの愚事奇談も、國家說耽醉の徒等、よき事となして其愚を學ぶものなしとも限らず。嗚呼かの忠義論者、國家論者は、我國を率ゐて多くの痴愚の擧動をなさしめんとしつゝあるものなり。

序にいはん、鎭守の祭に小學校生徒を參拜せしむるは、國民教育上欠くべからざることは、如何なる勘考より割り出したるの說かは知られども、其實鎭守の祭禮日は、地方人民の放樂蕩遊の日と心得て、多くの醜事惡行の行はるゝの時機なれば、かゝる場處に小學生徒を赴かしめざるやうになすこそ、教育上の注意なるべきに。抑も地方に鎭守の社あるは、もとこれ多くは其地方に功勞ありたる英雄義人を祭祀せるものなれば、其人を尊敬するは至當の事なることなりと雖も、さて今日鎭守の宮は、全く昔しの神威を瀆され、淫祠妖神に等しくして、其祭神の尊敬を崇拜するの念に乏しく、且つや其祭日には神檨の前には頭を下げて、御札を戴いて、御神輿の出づるを囃し立つるとより外には何事もなきものと、父子相傳に心得、また平日は其神社の拜殿は、自分等の遊戯場と心得たる處へ、いざ祭日といふによりて、教員に導かれぞろ／＼と之に參拜したりとて、これたゞ小學生徒をして、奇事を演ぜしむるに過ぎずして、これ豈に國民教育上の一要件となるなどとは夢にだも思ふべからず。

今此奇をなすの地方あるに當りて、教育家の格別に之を非難するものもなく、其流毒の惡ふべきものあるをも慮るとなきや、蓋し社會の多くも亦、偏狹なる國家說に醉ひて、人を俟たずして、自らまた彼愚を行ふに志しあるが故なるか。

また教育時論の叡堂迂人なるもの、祝祭日には、小學生徒一般に一定の服裝を着けしめて、嚴かに其日を守らしめんなど、說けるあり。これまた鎭守の參拜と殆ど伯仲の事のみ。國家主義論の偏狹熱このまゝにしてなほ流行せんには、いよ／＼面白き說、可笑しき事柄を現し來らんも、たゞに鎭守の祭の參拜、祝祭日の制服一定などにとゞまらざるべきなり。

◎無益なる忠義愛國の教育

小學生徒をして愛國心を增加せしむるの方法如何など、眞面目に討論するの教員輩、日頃生徒を敎ふるに忠義、愛國の二語を頭より說き付けて、この二つを呑み込ましめ、天晴れの愛國者、忠義者を造らんとすと雖も、其敎師さへ忠義、愛國とは果して如何なるものなるやを知らざるに、年幼に未だ國の觀念を有せざる小學生徒等は、畢竟するに、敎師の口うつしに、鸚鵡的に忠義、愛國の語を記憶し得るにとゞまるのみ。然るに是に於て敎員は得々として、國民敎育は如斯くすべしとする、其不見識なる、其痴迷なる、眞に憫笑するに堪へたり。某地方の一小學生徒が、楠公は人にて作り忠義をなさしむるものなりと作文したりとか。笑ふ勿れ、この一文は眞向より今日の忠義愛國の敎育の價値を說明したるものなればなり。

◎忠義心の弊

米國宣敎師フルベツキ氏 は、我國に文明的の敎育を起すに預りて大功あるの人あり。氏嘗て日本開國の記臆を談じて、懷往の情を洩すとあり。氏の長崎に在るや、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

諸藩の士人、珍らしげに氏を訪問して其說を聞きしもありしが、氏は當時の有樣を述べて曰く、

先づさう云ふ人の平生の人のはなしには度々聞きます、言葉は忠義々々、忠義は封建の法の立つて居る時代には極く必要であつたに相違御坐りませぬ、其時の御士の中でも、私の忠義と云ふものは我國家の兩方の足のやうな、少し動いて來ると混雜するから、忠義は何處までも保つ方で、私が米國の共和政治の自由なことを少し向ふの人に申した時、危ない忠義の妨害になると思つて恐れたやうでした、併し忠義と云ふことは、今日の立派な明治時代の方から見れば、狹いものでござります、例へば肥前の人ならば先づ鍋島樣の爲に力を盡します、爲に命を捨てなければならぬと思つて居る樣で、封建の立つて居つた時には宜しう御坐りましたらう、多分宜しう御坐りました、又薩摩の人ならば、島津さか、熊本の人ならば細川さか、皆さうで御坐りました、他藩ならば外國と同じやうなものです、故に度々私の宅へ可笑いことがあつたのです、私も漸く止めることが出來ました、例へば或日、內の奉公人が今薩摩の御士が御出になりました、どうしませう、通して下さい、私は椅子を出してどうぞ御掛け下さい、私も椅子に寄つて甘く話が出來る、何も差支ござりませぬ、大概同國のやうに話が樂に出來るのですけれども、不仕合に間もなくもう御一人、今度熊本の御人が御出なさいました、どうしませう、勿論通して下さい、熊本の人來ました、又椅子を出す、どうも其間が宜くない、此人は斯う見る（橫目を使ひ白眼の狀を示す）向ふの人も斯う見る、外國人に會つたやうな、却て私に近いやうな鹽梅になつて居ります、兩藩の間に挾つた人が堪らぬ、逃げて仕舞ふ、挨拶が出來ぬ、暇乞もせぬ、さう云ふ次第でござりました、今三十歲以下の御方は丸で思へぬことでありませうと思ひます、實にさう云ふことが幾度も私の宅で、每日でもなければど度々見たことがござります、

今にして之を聞く、噴飯を値ひするに餘りありと雖も、扨飜つて熟々考ふれば、今日の偏狹なる國家論者の言論行爲彼と相違ふ、僅に五十步百步の間に在るのみ。

◎新士風、舊士風

三宅雪嶺氏舊士風敗れて、新士風未だ成らざるを論じて曰く、

今日の文敎武敎の盛んなる固より前代の比に非らざれども、士風其物の缺乏は毫も疑ふ能はざるべし。封建の破滅が國家の破滅を意味せんには、士風の地を掃ふも當然なれど、新たに郡縣の成立せる上は、起るべきは必ず希ふべくして又必ず期すべきの理なり。現下の世情は言ふに堪へずして、昔日腰拔武士とし、武士のつらよごしとし、町人風とし、穢多風とせしもの、滔々として風動し、殆ど底止する所なきが如くなるは何ぞ、憶ふに士風の廢頽は廢頽すべき因由ありて廢頽せるもの、それ必ずや新士風の起るべきあるなり

我國士風衰へて紳士紳商なる者英國のゼントルメンの氣品なきも、阿久澤某の富巨萬を重ねて、而して普通の交際を爲し得ざるを以て觀れば、德義の制裁は尙は存するが如し。斯の制裁にして今一層普きを得ば、國民の體面庶幾は全くするを得んか。當代の蠢々たる徒輩は舊士風敗れて新士風未だ成らざる過渡期間の動物にして、新士風の成りたる曉、宛然孑々と等しかるべきのみ。新士風未だ成らずと雖も、其成るべきや必ぜり、唯だ其れ幾年の後なるか、幾年の後なるか。

◎三陸地方海嘯後の敎育狀況

去る六月十六日は正に、昨年海若三陸地方に暴威を逞しうして、酸鼻悽絕の慘狀を極めたる大海嘯後の滿一年に當れり。海嘯ありし當日には海嘯後の敎育とて、一時人々の口に八釜しかりしが、今日にては、誰れも彼れも忘れ果てたるが如く見ゆ、健忘もまた甚しいかな。扨て該被害地方は、其後敎育は漸々整頓して、やゝに進步すべきの見込なりといふ。序に人の說によれば、海嘯被害地方は、大災後人氣頓に惡しくなり、都會浮靡の風漸次に輸入せられつゝありと。元來同地方は僻陬未開の地方なりしに、大災後、都會地方との交通頻繁を加へしが爲め、浮華の風習、疫癘の如くに流入せしや、免かるべからざる次第なり。

さみだれやある夜ひそかに松の月

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

驕婦を哀れむ

鷗村子

誰か驕婦を憎まざらんや、婦の驕となれるは、女の腐れたる也。左れど、人として其の腐化するを見て只だ之を悪むとをのみ知るは、仁と言ふ可らず。大丈夫また其の由來を知つて之を救ふの道を講ぜざる可けんや。玆に試みに、驕婦の成行を叙し、其の性情を探り、以て其弱點を指摘せんとす。女性もし之によりて自から辯護するの料となさば、吾が志にあらず。四方の好士幸ひに、其の愍れみを寄せて、婦に對する一種の駕御を念へと云ふ。

* * *

希臘の哲人ソクラテスに一人の妻あり、其名をザンチップと呼べりき。性頗る驕悍不遜にして、ソクラテスの德と雖も之を良化すること能はず、却て常に其苦しむる處となりて、之が爲め笑ふべき物語の種をさへ、後の世に殘せり。而も亦ザンチップなる名は、二千四百年後の今日に傳はりて、軈て驕婦を意味する言葉となり、彼女が不德は、其夫の高德と共に幷び稱せられて、人の之を誹譏嘲笑せざるはなし。

吾人屢ば論ず、女子の最も重んずるは、情念の滿足融和を得んとするに在ることを。彼等はこれが爲めには、富貴榮華のみか、生命さへも、物の數ともせざるの極、幸に万望遂て、情念滿足すれば、貞良温和の善婦となり、之に反して、不幸情の失望の一度び大打擊を下して、可憐の女子を痛苦せしむるに當りては、往々にして、甘んじて死に就くものを起し、また屢ば殘虐甚だ怖るべきの毒婦を生ずることあり。されば、吾人も亦嘗て毒婦を評論して、彼女は情に狂したるものなりと斷ずることありき。而して今彼驕婦の徒を觀察するに、是れ亦、彼等が、其女性的なる情念の滿足を得ざるの失望の重なり積りて、かく成り果てしものならずんばあらず。毒婦の害あるや、甚た怖るべく、驕婦の悍なるや、頗る煩はしとなす。然りと雖も此二者共に、其怖るべく、また煩はしきが中に、頗る愍憐すべきの衷情ありて存せるものあり、而し前者に

比して、後者の罪業深からざる丈け、更らに情の察すべきものの多し。

夫れ女子は男子を待つて、情の滿足を希ふものなり。男女同權などいふことは、男子の物好きに唱へたるの說か、または年若く理屈のいひたき盛りの娘か、若しくば老孃輩の云ふべきものにして、決して眞に一般女子の實情に出べきものに非ず。

女子は到底男子に服從して、柔順溫和に奉仕せんことを欲するものなり、然れどもまた心身を捧げて、專心我夫を我佛と仕ふる以上、己の爲めには我夫こそ、誰人よりも秀でたるもの、尊敬すべきものなりと感服すべき業、働きを夫より示して貰ひ度く、また其上に、常に己にやさしく、思ひやり深く、何者にも優りて己を愛し、時には子の如くに己を顧みることあればまた時には、母の如くに己を慕ひて、よく己がかれこれとの女心の申出しも、敢て逆らはで用ゐ呉れんことを望む。此愛情と彼尊敬と相一致して、家庭の和合初めて成るべし。

されど男子はよく女子の哀情を思ひやり、女子はよく男子の精神を思ひやり、兩者の思ひやり、相一致することは、中々に出來難き事なり。されば男子の方にては、さまでの不平なき時にも、女子の方にありては、夫の仕打の己に充分の滿足を與ふること能はずして、心中に壓して外に露はさゞる不平の情なき能はざるは、琴瑟の和諧を障得するの便となること極めて尠からず。理想一致せずんば夫婦相和するの道に欠ぐといへるも、蓋しこの故なるべけれども、單に理想精神といふ、嚴めしき、理屈つぱき點に互の同情あるのみにしては、未だ全く夫婦和合の便りたらざることあり。如何に智慧あり、理想ある女子にてもなほ理屈より推せば頗る馬鹿々々しく、また子供らしき情念をば、夫の言行によりて滿足せしめられんことを欲するは、免れ難き女心の常なり、これ女子に常なるの俗情なり。もとより讃むべきことに非されども、亦よく之を御すれば、却て女子のやさしさ、愛らしさを增すこと多し。されば男子にしてよくこの女心を汲み分けて、之を善良なるに導きて滿足を與へんか、既に理想精神に於て互に同情する處あるものは、素よりのこと、假令これを欠ぐ場合にても、夫婦の間に樂しき和合を來たさゞるは稀れなり。所謂女心のはかなきものとても、之が滿足を得ざることは、女子に取りては甚だしき苦痛の甚なり。女心は唯男子に顧らるゝことあらんを希ふ。君に導

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

かれて如何やうにもなりなん、其俗情を押へて、はかなき物思ひをせじとこそおもへ、されど之を顧みらるゝとなくんば、いよ〳〵窄き女心の積り積りて、たとひ、敎育あり、智慧あるの女子すら、なほ堪へ難きに、況して此等に乏しきものにしては、其忍び難きと如何ばかりぞや。若し敎育あり思慮あるものか、またはどこ〳〵迄も柔順なる女子ならば、涙を呑みつゝ、これを忍んで獨り心を苦しむるならむ。されど神經過敏のものか、または强味ありて、勝氣あり、且つ思慮の足らざる女子ならば、此際驕婦と成り遂ふすることとあるなり。ペルサック謂へらく、女子は男子に壓せられざるときは、必ず男子を壓すと。本來男子に壓せられて之に服從せんとを俟つの女子にして、我女心の滿足を與へられて、男子より樂しく喜はしく壓せられざるの不平は、其本心を飜がへさしめて、却て男子を壓して、我意の如くにせんとするも、强ちに責むべきのとに非ず。夫の業務の爲めに家を外にし勝ちなる、または終日勉學に餘念なくして書齋の外に出づるとの稀れなるなど、理よりいへは、事業に勉勵するが故なるを以て、妻亦、之を喜ふべきなるも、其處が女心の可弱さには、如斯きは妻をして、たまにはやさしき言葉の一ッ二ッも掛けて欲しやとの、滿され難き希望のみを鬱積せしめて、天とも地とも、君とも親とも思ひ、心も身をも打まかせて、之につれそふ女子の身の、いとつらく感ずる處なり。古來情を說き愛を談ずると衆にすぐれたる大文學者、大詩人の家庭、琴瑟の諧和を缺いて、果ては離婚、別居、再娶、閨怨等のいたましき出來事の一度ならず起りし例、稀れならさるは、蓋し彼等自らの事業に成功せんとをのみ貪りて、半身の妻を顧みざるものゝ如くし、其女心のいとたよりなきを慰むるの暇を作らざるが故に、妻はかくも誠に誠を盡くして仕へまゐらするものを、何にとて我夫の我につれなきやと、思ひに思ひの重なりて、それがコウじては、果ては悲痛の出來事ともなるなるべし。如斯き行蹟出來事を見て、獨り女子を責めんとするは、女子の性情を知らざるの所爲にして、甚だ苛酷なりといふべし。トーマス、カーライル夫人は、其死後、生き殘りし夫をして、生前の堅貞淑貞なるを賛美せしめ、嗚呼我妻逝いて我は光明を失ひたりと悲嘆せしめたる程の人なり。されど此人、嘗て何といひ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しぞや、年若き娘子達よ、必ずや、天才ある人の妻となること なかれ、と。其言や頗る悲悽、一言一語血を吐くもの丶如し。夫れ文豪カーライルの如きを所天となして、夫人何の怨む所かある、たゞこれカーライル世の崇を聞き、人の愚を教へ、天下に眞理を宣傳するに忙はしくして、之が爲めに却て、彼が爲めに一生を犧牲として奉仕せる最愛の妻を顧みて、之を慰むることなきを恨み、人の爲めに刻苦したまふは、最も望む處なりと雖も、さりとて今少しく、君の外によるべなき我身をも哀れと愛でたまふことのありとても、よからんものにと歎じ、恨思痛嘆に、其一生を苦しめられて、其世を終へたりけん。思ふに茲に到らば、夫人の情頗る愍むべきに非ずや。

詩聖ミルトンは、平和なき家庭に一生を送りたるの人なり。彼再度び妻を娶りて、遂に夫妻眞に和樂するを得ざりき。或時人あり、ミルトンに向つて、其後妻をほめて、夫人は薔薇の花の如くに美はしといひしに、詩人は之に答へて、曰く、まことに然らん、されど我目見ることを得ざれば、其花の如くに美しきや否やを知らず、たゞ我は其刺に觸るゝのみと。彼の妻は一箇の驕婦にして、屢ば其夫の煩ひとなりたるものなり。されど如斯きは、たゞに妻の惡しきが故のみに非ずしてミルトンのよく其妻の女心を御して、已に服從せしむること能はざりしより、却て妻の爲めに壓せらるゝ所となりき。彼の前妻と和せずして之を離縁して、また後妻とも樂しからさりしもの、所謂女運の惡きには非ずして、女心を御するの術を知らざりしが故なり。

ソクラテスも亦其妻の女心を滿たすの術を知らずして、遂に一生妻の爲めに壓せられたるものなり。ザンチツプは無學の女子なりしなるべし。されど當時のアゼンの政廳さへ認めて民を害するものとなして、一杯の毒を仰いで非業に死せしめたるものを、况して彼女の其夫の値を知ること能はざりしは當然のことならずや。ソクラテスや、途に出でゝ人に哲理を談ずるを事として、家は團欒の樂みを缺き、妻子をして獨り衣食の窮乏に齷齪せしめ、人を敎へて妻を愛せす、弟子を愛するの情ありて、妻の心を察するの情愛に乏しかりしとの、ザンチツプをして、不平禁ぜざらしめたるも、また宜べならずや。此鬱狂逆發しては、屢ソクラテスを苦しめ怒鳴り散らして、果ては頭より水をあびせかくれば、夫は平然として

大雷の後には大雨ありなど丶、澄ませるは、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

大雷の後には大雨ありなどゝ、澄ませるは、ザンチップの目には、たゞ／＼意氣地なき夫よ、この如き故に妻子を貧困に苦ましめて、平氣でをられるなりと、不平更に増加するものありしならん。されば驕婦彼女の如きものを造りたるは、ソクラテスの責に在ると尠からざるなり。

されど如何に成り果つるとも、女はどこまでも女心の愛らしき處を失はぬものにて、流石に殘虐暴戻なる毒婦とても、眞の情夫に會ひては、可弱く愛らしき女房を氣取り、我夫は意氣地なしよ、情無き人よと不平勃々禁ずる能はず、爲めに夫を壓制して服從せしめんとする驕婦も、それ程不平ならば、夫を見捨てゝ仕舞ふかといふに、必ずしも然らず、如何に不平あればとて夫は夫なり、之を守り之が世話を燒き、其中なほ夫の、心は剛に情は深き人となりて、我が驕悍なるを切り從へて柔順の妻たらしめかしとの本來の望みは、本人が不覺の内に陰現せるものゝ如し。驕婦にして、不平なる夫に貞節を全うするも尠からず。これ實に女は何處までもやさしき女心を失はざればなり。毒婦驕婦の心を剛愎にせるの堡砦は、男心の剛かつ柔なるものに會すれば、女心てふ内應者の手引によりて、いと容易に打ち砕かるべきものなり。

夫れ女心を御するにコツあり、緩めて放たず、緊めて引かざるの法これなり。家政の事に夫の一々干渉するは、妻の好ざる所なれども、また一切干渉されざるも快よからず、時々の相談には乘つて貰ひたく、男は氣樂なものかな、芋の羮えたものも御存知ないとて、妻は却つて喜ぶが中にも、我が料理したものゝ味の良否は知つて欲しく、着物の事など丸で無頓着なるが結句氣樂にて、其世話を燒くが、ぶつ／＼いひながらも樂しきなれども、我裁縫振りの見事な處は鑑定して欲しく、外に出ては、成丈エライものとなりて男を賣つて貰ひたきが、さて内に在りては成丈やさしく、針仕事をすれば、絲をかけても呉れ、子供の守りも時々はなし、さりとてイツモ女房や子供の傍にベタ／＼して居ては貰ひたからず。妻の心を酌んで經濟はつゞまやかにして欲しけれども、時々はオイソレと着物の一二枚も買つて呉れ、外に出れば、何がなくとも土産の一ツも提げて歸つて欲しきなど、例を擧ぐれば數も盡きざれど、概するに妻の夫に望むものは第一、外に在りては剛、内にありては柔、氣心がやさしく、鷹揚で、干渉せ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぬやうで時々は干渉もし、見ぬ振りで時々は見、よく我が女心を察せんとなり。女心を察して之を滿足せしめ、その俗情を安じて、之を善良平安なるに導くの夫ならば、妻は之を尊敬し、之に服從し、天にも地にも、たゞ一人のたよりとなして、柔和貞良なる女子となるべし。由來貞女烈婦を造るの功多くは男子に在りて存す。

それ毒婦驕婦は女の腐れたるもの、此等の女子の中に在るは女子の耻づべきの事なり。吾人亦彼等を憎み、彼等を忌む。然れどもまた彼等に就きて、衷情頗る愍むべきものあるを察して、曩に毒婦論を作り、今又驕婦を愍む。吾人素より彼等女子が俗情弱點のなれの果てなる殘虐、驕悍を辯護せんとするものに非ず。たゞ彼等の愍むべきを隣んで、且つ又世の男子宜しく女心の可憐なるを察して、其弱點を救濟すべしとはいふ。然れども、女性をして其弱點を辯護するの口實を得せしめんとするものにはあらざるなり。

槇蔭茶話

星野巴聲

いにし年の秋の暮、そゞろに涙おほかりしわが身の、庭に樹てる千年の槇に對ひつゝ、むかしはふ師が、むらさめのと詠ぜしをおもひいだして、さてこそ露葉とは名のりけるを、知らぬ人は、あらぬ方におもひなして、何かと噂うるさく、かつは近き頃、おなじ名の人さへも、まゝ見ゆるやうなるが紛らはしくおぼえたるに、折から、さる方さまの改めよとすゝめたまふ、それもよからむと、わが友玄子にはかれば、をさいらしく筮竹をひねりて、易のおもてを云々と語る、おのれそれに考へあはせて、さて巴聲の二字を得つ、かく改むることゝはなりぬ、こは去年の暮の秋の事にぞありける、あはれ槇の葉ずゑに結びし露の、落ちて碎けて消えにし後の、水の聲いかに、素より草にかくるゝさゝら小川の流にしあれば、野路行く人にもきかれざる響なるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きつね橋

去年の秋、わがまきのやに、眉山子住まりし折の事なりき、秋骨禿木の兩子都より來り、さま〲の物語に夜をふかせしその次の日、いざなふ人のありたるにまかせて、近きわたりに茸狩をこゝろみぬ、いかなるがよき、いかなるがあしき、其道にはあまりたしかならぬ我等の、松の林、雜木の森を、其所此所とあさり行きつ、さて廣き道にいでゝ、とある茶店に憩ひぬ、此所は林をはづれて、ひろく田の面を見渡すべき家の造りざま、例の茅葺の田舍風にて、隣家もあらぬ閑靜の好き所とたゝへながら、ふと見れば、立働く十四五の娘の、しやぐまに結びて、しろきものもつけたり、かゝる所には似合しからずとおぼえしに、やがて奥の方より、女房とも見ゆる四十あまりの、みよくもあらぬ女の、薄化粧したるがいで、つゞきてまた現はれたる女三人ばかり、いづれも年わかきがあやしき姿、地は何かしらねど、抱茗荷のひとつ紋をすが縫したる黒の羽織を引かけしもありけり、お洗足の水を差上げませう、奥へお通り遊ばせなど、田舍にはおもひがけぬものなりしに、われ等いづれも、これは〲とおどろかれて、さても不思議さ、唯あきるゝばかり、たがひに見あはせて一句もなし、折から奥の方に客の笑ひ聲、なまめかしきも洩れ來つ、かの女房の德利さげ行くも見つ、こは氣味わるしと草鞋の紐もむすび直さで、おかへりに是非との言葉を聞流して、そこ〲にたちいでぬ、さて此家の事を後にきけば、あれは人をばかす白狐、あの所をば狐橋とまをしまするど或人の語りき、あはれ我等とおなじく人の形したるものが、狐と呼ばるゝはいかに、彼等もむかしは淨きものなりけむを。

おいぬさま

ある年の夏、わが友鷗侶子、禿木子と供に日光へ行きし其途中の事なりきといふ、宇都宮に下車して、しばしある店に休みつゝありし折から、店の小僧の、あれおいぬさまが、おいぬさまがといふ、見れば街のむかふ側を行く一人の女あり、身は垢に埋れて、髮は鼠の巣か鳥の巣か、まとへるものは荒布かあらぬか、年は四十ばかりにやあらむ、眉目よしとにはあらねど、不具なるやうにもなし、それに隨ひ行くひとつの黒き小犬は、なか〲に肥えて勢よし、これにつきて此家の

老爺が語りしは、かの女の家、もとはこの宇都宮にても指折なりしが、父親と娘との二人にて暮すやうなりしは、今より三十年も前の事、元來この親は、なみ〳〵ならぬ犬ずき、その頃はまだ洋犬といふものあらねば、和犬のたくましきを、常に五六匹も飼ひおきては、わが犬より強きはあらじ、わが色よき犬を見よとばかり、誇りつゝありしが、やがて娘も年頃になりたれば、聟をむかへしに、この男は犬をあまり愛さゞりし故かあらぬか、長からずして離縁されつ、その後損亡ありてか、次第に不如意になりて、竟に家藏も他人に讓り、最愛の犬さへも養ひがたくなり、おのれもまた、娘一人を殘して、その世を去りぬ、かくなりては誠に親切に世話する者なく、いまはその娘の見らるゝ如き姿、毎日諸所をさまよひあるきて、わづかに命を保つばかり、さても今に猶すてがたくや、かの黒犬ひとつ、いつも離れず、さればむかしの名は忘れて、呼ぶも呼ばるゝも皆是おいぬさま。○○○○

松風蘿月

耳に天籟を聽て諸子を讀み、目に清光を見て詩歌を誦す、此時其心すまざらめやは、荒川の流に沿ふて、馬宮といへる村あり、此所の鎭守なる氷川神社に近く、ひとつの堂あり、まつられたりし神は何所に去りたまひけむ、今は椽朽ち羽目破れて、蜘蛛のみぞひとりさかえたる、かゝる所に此頃いづこよりか來りて、雨の日は籠り、晴の夜は宿る、ひとりの老いたる乞食ありけり、常にこゝらわたりを乞ひあるくにも、大きやかなる風呂敷包を背負ひてぞ行く、蝸牛のそれならねども、何を重げに納れおくにやとおもへば、おれは書籍なりとて、學者乞食よと人々の噂す、わが友鷗侶子これを聞きて、こはおもしろし、今の世にゆかしきものよと、ある日ゆふつかた、その棲む所を音づれて、さて其人を見れば、六十の坂にはまだとゞかざるべく、顏はやゝこけたれど、みにくきほどにもあらず、額ひろく、眉ながく、まなざしあきらかにして、なかほど少し薄くなりたれど髮も白からず、身材たかくしてなほ壯なり、何處いかなる人ぞと、鷗侶子おもむろに訊ねけるも應ぜず、その名を問ひけるも答へず、唯、御承知の如く、あなた方のおめぐみにて餘生を送る老人とばかり、さてその書籍を見たしと望めば、つまらぬものをと呟きつゝ、かの風呂敷包を押開き、その中の四五冊を取出す、見れば老

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

子莊子などなり、いづれも甚くふるびて、綴糸も切れたるが多し、なほ垢じみたるは、その持主にも劣らざるべし、ところ〴〵に書き入れたる朱の文字は、この者の筆なりとぞいふ、なか〴〵に好し、この他數十冊の書は、何にやあらむ、日も暮れたれば、また訪ふべしと思ひて辭し去らむとすれば、ふたゝび我を煩はし給ふな、きたなき此老爺を二度とはたづねたまふな、されど御臺所に參りたる節にはめぐませたまへといふ、さてもいかなる人のなれる果にや、ゆかしきものよとおもひつゝ家路をたどりしが、數日してまた鷗侶子彼を訪へば、堂暗くして何ものもあらず、その姿も見えざりし、問へば人の、其後見えずとぞいふなる、あはれ老先生の行方や何處、堂はいよ〳〵荒れて、蜘蛛威をふるひ、氷川の杜影黑き夜は、梟木の間に啼いて、行く人を驚かす、さてもまた月の明き夜は、唯松風のみぞきこゆなる。

このあたり目に見ゆるもの皆涼し　ばせを

明治四年岩倉大使一行歐米回覽瑣談

本年二月二十七日は、かの明治四年十二月、岩倉具視を全權大使となし、大久保、木戸、山口、伊藤を副使となせる使臣の一行、條約改正請求の爲め、歐米巡回の途次米國市俄高府に入りて之を發したるより、正に二十有五年に滿つるの紀念日なり。これが爲めに同地の『シカゴ、レコード』新聞は、此日を紀念するが爲めに、同日の新聞紙上に『舊新日本』と題して、同新聞特別寄書家たる東京在留浸禮教會宣教師クレメント氏幷に津田梅子の兩氏の寄書、伊藤侯爵、東久世伯爵の書簡等を採錄せり。彼一行に伴ひて渡米留學したる五人の女子に關しては、本誌第四百三十八號（本年三月二十五日發行）紙上に「米國に留學せし最初の日本婦人」と題して津田女史の談話を掲載せしが、猶今該新聞に接手したるを以て、その載する處の節々を摘記せん。當年を回顧すれば春風秋雨二十有五星霜、世上榮枯凋落の變轉の甚だ多きとや、吾人をして洵に今昔の感に堪へざらしむるものあるなり。

◎當年の岩倉は四十五歲、大久保は四十三歲、木戸は四十歲、山口は三十四歲、伊藤は五人の中の最年少者にして三十二歲なりき。伊藤博文はこれに先だつ十年前、下の關事件談判の爲め渡米せしとありしなり。

◎大使一行の米國桑港に着せしは明治四年一月十五日（太陽曆）なり。其翌日市長アルヴォルド氏の招待を受けたるが、同地滯留中は多くの訪問者、贈品、饗應等を受けたり。

◎伊藤博文、一日桑港の公園を散歩しつゝありしとき、乞食の惠みを乞ふに會す。博文カクシより一枚の銀貨を取り出さんとして、手に入りしは金貨なりしにも拘らず、直に之を乞食に投げ與へしかば、傍にて之を觀つゝありし一米人は其時、此人必ずや日本國未來の大宰相たるべしと豫言せしとかや。博文また同地にて英語の演說をなして、日本が開國進步の精神にてあるとを說きたり。

◎桑港を去りて暫くサクラメントに留まり、それより、大鹽湖市に到りしが、折柄の大雪の爲めに、二月四日より同廿一日まで、此地に滯在せり。同市にては著名のモルモン教徒ブリガム、ヤング、大使を其家に招待せんとせしに、上位の下位の家に招かるゝは、我國禮に非ずとて、大使等之に應ぜざりき。

◎二月廿五日市俄高府に入りき。同市は恰も大火殆ど全市を烏有に歸せしめたる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

使なりしかば、大使等は窮民救助の爲五千弗を當時の市長ジョセフ、メヂルに宛て丶義捐したり。同廿七日此地を發して、二十九日首府華盛頓に達したり。一行到着するや、コロンビヤ州知事クック、日本公使森有禮等之れを出迎へ、一行はアーリントン、ホテルに入れり。大使は三月四日、大統領グラントに面接して、國書を呈し、後二日を經て、大使等は下院に招待せられしが、此時前議長たる外交事務委員長バンクス、大使を議塲に紹介し、議長ブレイン歡迎の辭を述べたり。

◎大使の使命は、もとこれ曩に幕府の締結したる條約を改正して、對等國たらんとを要求せしなれども、基督教の國禁は未だ解けず、刑法嚴峻に、諸法律定まらず、加ふるに攘夷排外の念未だ盛んなるの時に當りて、此要求を呈出せしや、事態頗る大膽に失せり。されば華盛頓より聖彼得堡に至るまで一國として、我の要求に應ずるものなかりき。

◎津田女史の寄書中に曰く、女生等渡米せんとするに際し、洋服を調へんにも、之に供する材料もなかりし故に、日本服の儘にて、桑港着の上にて洋服新調せんものとの希望を抱きつ丶、外遊の途に就きしが、其時津田女史の所持せられし西洋臭き品物は、之より先き嚴父仙君の海外より齎らし歸へられし、小さき赤のショールと、英語初歩、小辭書一册とのみなりしとぞ。其時又エース、ノー、サンキューより外の英語は知ることなしに、異域の新生涯に入りしなりと。

◎然るに桑港にても日本服を脱すること能はず、監督者のデロンク夫人は自分でに日本服の物珍らしきを好みたれば、其儘にて米國中の旅行をなすこととよけれど主張せし爲、洋服を得ること能はざりしも、女生等は異様の風采の、外人の目に立つとを厭ひて、再三再四岩倉大使に請願したる末、やうやく市俄高にて洋服に着更ふることとなりたりとぞ。

◎桑港の宿屋にて、女生等の先驚かされたるは黑人の給仕人にて、夜臥床に入りても、若しや彼恐ろしきもの丶來りて、害を加ふることなきやと心も安からざりしとぞ。また或時は二人の女生の宿屋にありし時、一室より出て來りたる二三の米國婦人の俄に我等を捕へて、己の室に引き入れて、物珍らしげに英語にて樣々と話しかくれど、此小兒等は素より一語だに之を解すること能はず、玩具繪畫等を示して、之を喜ばしめんとするも、小兒等はたゞ此末如何に成り行くやらんと怖れ戰慄つ丶ありしのみ、斯如きと二三時間にして、また再び安全に其新室まで送り歸されしとぞ。

随感

古橋水頭の螢

むかし鎌倉政府全盛の頃ほひ、このあたりの民年貢を持ち通ひし大道のありけり。今は橋の名に名殘をとゞめて高く數間の老い朽ちたるが懸れる下に、兩岸の茂れる草をくゞりて水ゆるやかに碧色して靜かに流る丶此處を螢の鎌倉橋とて少しは此のあたりに聞えたるなりけり。或る夕ぐれ橋の上に立ちて日かげの漸く沒するを待てば樹陰凄愴として、水色次第に暗く、流の音初めてサラ〳〵と聞えて其の在處を見ず、冷風、えり元を拂つて鬼氣異臭をもたらす。時に、一螢、叢より出でて姿を映ずれば、更に一螢の續いて之れに伴なふを見る。次第に其數を加へて、水上時に天星の落ちたるかと念はれたれど、出沒時ならずして寂寥の氣減ずるとなし。彼等飛べとも羽の音のするにあらず、光れども明るさの増すにあらず、鳴くにあらず、歌ふにあらず、たゞ明滅して切りに求む

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る所は、何の秘事ぞや。汝の姿素より見るべからず、たゞ汝の光によりて在所を知れども、忽焉、之をかくして、其の足跡を消すものゝ如し。試みに捕へて掌上に置けば、愚然たる一小蟲のみ、半ば死せる如く倒れて動かず。則ち、之を放てば、銀光矢の如く射て、靈色、たましひを慰さむ。嗚呼、螢、汝は如何なるものゝ姿ぞや。

○暗き夜の月見草

星の光、雲を破つて微に木影を漏るる夕ぐれに、月見草は例の如く開き初めけり。黄色のひとへを盛んに裝ふ、誰に見するとの姿なるらん。もし夫れ月色、銀の如く、溫なる光、露にうるほひて、親しく此の裝ひを撫で玉ひける情の御時に比ぶれば、渠は如何に物さびしく、如何につれなくや思らん。然るに嫦娥の宛ら居ます如く化粧を變へず、空しく虫聲に怨をよそへて、よもすがら立つて媚をまもらんとす。時に人ありて萬解の涙をたゝへ、ひとり物かげにつくづくと眺めて其哀れを悼まんとするものあれど、渠は素より他し心を搆ふべきにあらざるべし、いさゝかも身動きせで、唯だ一向に天を仰ぎて待つ所あるやうなり。

○稚心何ぞ久しかりし

顧みて過來し方を念へば恥かしきとのみ也。如何なれば、斯くは稚心の久しかりしぞ。屢ば古人の訓戒をあだに讀み過ごして、其價値を覺らず。今少し早く諒解し居たらんにはと、あとより思ひ出づるとのみの多かるぞ恥かしき。生れて、三十又五、物心つきて事に經驗せしより屈ふれば十五六年にやなるらん。此間の經歷を惟みれば、殆んど二人三人の別人を合せたらん如く吾れは自覺す。左れば、此後には更らに幾變遷して幾そばくの新らしき恥を築るにやあるらん。但だ只だ其都度に新らしき道理を辨へ知りて、眞の齡を加ふるかと考ふれば、玆に初めて眞理の味の甘きを知り、爽快、譬へん方なし。愚なるは醫しがたし、只だ學を好むの情に至ては終生希はくは老耗すると莫れと切りに祈禱す。

○老月晩く徊徘す

眞夜中に友のやゝと呼び起すは窓外の月を見よと言ふなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時に殘月、黒銅色を帶び、凄慘たる斷雲を破って、低く庭前の露を照す。惟ふに、今起き出でて、わざとらしく之を眺むるものは少かるべし。但だ宵より未だ寢ねず、空しく人の歸るを待ちて、窓下に此の慘たる月光の恨みを仰ぐ冷閨の佳人なきをヿ得る乎。詩人歌ひて曰く、憐れむ可し樓上に月徘徊し、應に離人粧鏡の臺を照すべしと。余は聲を飮みて再び横たはる。

○太虚の虚

曰く、太虚。曰く、自然。曰く、誠。其意の玄妙にして、其事の尤も美くしきを知る。常に練磨して未だ達せず、久しく恨懷を抱きて、道の進まざるを歎ず。歎何ぞ疚しからん、其際亦た太虚あるヿを知りて又及ばず。到底、大勇猛の氣未だ充溢せず、生死離脱、大悟徹せざるに於ては、練れども練れず、苦しめども苦しまず、遂に一紙半葉の間隙あるヿを覺ゆべし。人こゝに到りて宙宇にブラ下るの爲躰、何ぞ彼の首くゝりが綱にすがりて一演説を試みんとするヿ、相異ならんや。

○虚無と生々と

若し茲に兩端の論あらば、眞理は此の二つ乍らを包容するを常とす。ひそかに近時の所論をきゝて私に亦此感あり。厭世と云ひ、樂天と云ひ、虚無と云ひ、生々と云ひ、未來と云ひ、現世と云ふ。凡そ其の一つに偏して、他を不可なりとするものこそ究竟の事なれ。融通自在、羅織一和して、すべて障礙ある所なきに至らずんば、大道に得たりと言ひがたし。人情もと二樣の癖あり、故に我國亦た古へより二樣の系統を引。馬子と連と相爭ひ、平田と儒佛と相爭ひしを經て、近頃、亦た同樣の拮抗あらんとす。大凡そ、其の一つは、日輪の赫々たるを崇め、他の一つは、月輪の靜寂なるを愛するを常とす。則ち、論爭して、陰、陽、消、積の優劣を辨ずるに至るヿ古來大抵然り。惟ふにこれ同に反動の餘波にして互ひに過不及を相補ふの用を爲す。達人もし之を觀ば、圓滿の眞理は超然として其の二つの上に立ち、休々として其の兩端を包容するヿを認むるなるべし。誰か、日月の一つを揚て他を斥くるヿを得べけんや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時　文

◎つきくさ　　森鷗外著　　春陽堂版

『水泡集』以後の飜譯小說、脚本、小品、並びに隨筆に加ふるに、小金井君子、緑堂野史等の著譯を一括したるもの、之を『つきくさ』となす。載する處の概をいへば、女丈夫、ぬけうり、はげあたま、俘、の鷗外に成れる、浮世のさが、名譽婦人、浴泉記、皮一重、戊辰の昔語などの君子に成れる、これいづれも世に既に定評あるものにして、而して其合せられて一部の美本に入るの今日、更に繙讀して興味多きを覺えん。

◎女子教育談　　嵩山堂版

三月二十四日の夜帝國ホテルに於て開かれたる日本女子大學校創立披露會の席上にての、近衞公、蜂須賀侯、大隈伯、內海忠勝、島田三郎、江原素六、成瀨仁藏諸氏の女子敎育に關する演說を集めたるものなり。女子教育界を益すること多き有益の書なりといふべし。

◎諸葛武侯　　內藤湖南著　　東華堂版

三國群雄割據の狀は、春秋戰國以後の、史上の奇觀なり、天下を三分して其一を保ちたるもの劉備の智德兼備せるによると雖も、孔明の智謀忠勇を假るに非ずんば、如何ぞよく漢國祖宗の天下を起すことを得んや。孔明は實に支那歷史中にて最も人に尊重んぜられ、最も人に畏敬せらるゝものなり。內藤湖南此頃『諸葛武侯』の著あり、孔明が昭烈三顧の知己に感じて、草廬を出で、終に彼を助けて天下を平定したるの事蹟を評論叙述す。此卷未だ侯が後半期の後帝に仕へて苦忠守成に盡くしたるの蹟に及ばずと雖も、こは續篇の出づるを俟つべくして、此卷によりて諸葛武侯の前半生たる隱棲、出廬創業の大功の美蹟を見て以て、三代以後唯一の人物、王佐の才の智謀如何、忠勇如何を知るに餘りあり。

◎支那小說戲曲史　　笹川臨風著　　同

此書は、元朝以後、支那に於て盛んに行はれたる小說戲曲の跡を索れて、元に在りては、水滸傳、三國志。西廂記、琵琶記の類、明に在りては西遊記の類、淸に在りては、紅樓夢、桃花扇等、及び支那名譽の小說家金聖嘆李笠翁等に就て叙述するものなり。支那小說の日本小說に於ける、其影響する處、頗る廣大なるものあるに於ては、我を知らんとするに先だちて、彼を知らんとせば、此書の如きよく其消息を告ぐるものならん。

◎新著月刊　第三號　　東華堂版

『めぐりあひ』繁野天來の作、天來とは新體詩に於て、其名をきゝたる人なれども、小說にてはこれが始めてなり。此作の如き初陣といふ處もあればか、さほど見るにも足らず。

『斧の音』水谷不倒に成りて、筆流石に無理ならず。

『中年增』小栗風葉が一口談話をきくと思へばよし。素より小說といふものに非ず、中年增の奇怪なる、讀者をしてまた作者と其疑を分たしむ。

『玉かつら』島村抱月の作、これ本號中最も讀みごたへのするものなり。抱月氏の筆、此作にも初めてやゝ見上ぐるを得たり。大工伊三郎の嫉妬深きは、其妻お繁に情夫あるを疑ひて、それが爲めに短慮の事を仕出かして、暗い處へ入れられしも、お繁の事を思ふては憾み、獄則をも守らずして度々破獄を企つるといふ事、お繁に惚れてゐた看守の何某が、親切ごなしにお繁をあしらい、終に欺いて其操を破らしめ、お繁もつひに不貞の事になれ〳〵て其心を暗ませしが、其看守のお繁を見捨つるあり、而して以前よりいとなつかしと思ひ、それが爲に夫にも疑はれたる弟分の新之助に會ひて、終に之と共に家を出でしが、伊三郎破獄して、兩人をつけねらふより、兩人心中の責め苦しさに耐へ難くて、一夜終に情死を遂げたり。お繁が先きには夫の疑ふ所となりし時には貞を守りて而も不貞とせられ、世人また之を不貞なりとして譏誹せしものが、看守の爲めにあやまたれて、最後には、自ら進んで不貞を甘んずるに至りたる、心の變化の跡など、よくものしたり。』

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

今の小説家其最も多くは、社會人事の暗潮を傳へて、男女の弱點の腐敗墮落に導くの消息を傳ふるに巧みにして、また之を喜び、新進作家の名を成さんとするも殆ど之によらざるはなし。之れ蓋し社會の爲、寧ろ嘉すべからざるの現象なり。」紅葉、柳浪二氏の苦心談これまた此卷中の興多きものなり。

◎太陽臨時增刊

博文館十年の紀念として、當世書生氣質、當世商人氣質、浮雲、浮城物語、大詩人、埋木、二人女房等、逍遙、篁村、二葉亭、龍溪、露伴。紅葉鷗外等が舊作中の菁作を集めたり。附するに高山學士の、明治の小説を以てす、諸家の小説は、高山氏の此一文を自ら説明するものならずや。

◎家庭新聞　第一號

教育報知の發行所なる東京教育社より新に家庭新聞なるもの發行せらる、志旨は教育と家庭との聯絡を計るに在りて、自今毎週發行せらる。

◎新小説第二年第七卷◎英文青山叢書は未讀

◎女界文壇雜俎　六月上半期

◎社會と女子（山本良吉）	日本人第四十四號
◎女傑崇拜と女子教育（三輪田眞佐子）	教育時論第四百三十八號
◎紅蘭女史逸事	同
◎紳士及び貴女	裏錦第五十六號
◎我が國の家庭（中川謙次郎）	家庭新聞第一號
◎寡婦論	女鑑第百三十四號
◎女子教育（齊木文夫）	同
◎四條流の儲禮（石井泰二郎）	讀賣新聞六月十四日
◎南洋の女丈夫	東京日々新聞六月十五日より
◎王子瀧の川學園	基督教新聞第七百二十一號

片々

◎日本女子大學校　の成瀨氏等によりて計畫さるゝや。天下之に賛同するもの頗る多くして起り、本願寺法主の如きもまた之に賛すといふを以ても、如何に此計畫の世に歡迎せらるゝかを見るに足らん。

◎然るに　又往々として之が反對論を聞かざるにも非らずして、其二三は此片々欄中に於て紹介したるが、近頃『女鑑』の齊木某が、日本女子大學校をば鬱勃たる野心の發動する處皇國の大道を忘却し、皇國の風俗習慣に違背し、己を欺き人を迷はすものとして、成瀨氏の基督教徒たるを以て、日本女子大學は、國道に違背する邪教を輸入せんとするものなりなど論じて、其議論著々偏狹の小量を示して、最も執るに足らざるの反對論なり。而も此事業を中傷するの説なり。これ口に國家の大道、仁義忠孝をいふを事とするものゝ、自ら顧みて耻ぢずんばあらざるの言なり。吾人は明治の聖代に此種の愛國者あるを歎ず。(略)

◎吾黨は　素より大に女子大學の設立に賛同するものなり。而して時々反對論を擧げ來るものゝ如きは、たゞ彼等の説を紹介するのみに過ず、士人淑女乞ふ誤る勿れ。

◎英國女皇　の即位ありしは一千八百三十七年六月二十日、即ち我天保七年に當れり。即ち今月の二十二日は即位六十年の大祝日(Diamond Jubilee)として、日輪沒するとなき大英國の領土此日女皇の萬歳を叫ぶの聲、或は天より地にわたり、山より海に亘がらんとす。吾人海外の民は、親交國の榮えある君主として、其萬歳を唱へ、また女皇の世に在し給ふは、天下女界の誇りなるを以ての故に、榮光いやましに加はり玉はんとを祈るものなり。

◎三輪田眞佐子女史　女子宜しく女傑の理想とすべきものを求めて、之を殷鑑となし、以て己を磨くべしと論じ、而して女史自らは、其師梁川紅蘭女史を以て理想となし、其見識を假りて今日まで浮世の風波を凌たるをいへり。

◎星巖と紅蘭　星巖常に紅蘭をして學問に精しからしめんとして、居常之に讀書を勵まし、時としては紅蘭を己の書齋に籠めて讀書を命じ、星巖外より其室に鍵をかけたりと。紅蘭の見識學才星巖の誘導を俟ちしこと斯くの如し。

◎紅葉山人　は文章に苦心慘憺の勞を積むものなり、其原稿の如きは、黑朱の點棒、張紙を以て滿たさる。其言にいはく、一回の小説に六時間を費やすと。而して新聞紙一回の小説が、山人には一日の事業として十分なるものといふ。

◎柳浪の　日く、『龜さん』は四十時間位でかき、『變目傳』は三夜で出來、『信濃屋』は二日、『今月心中』は四日間を費やしたりと、而して此等は皆柳浪の上作なるを以て

は二日、『今戸心中』は四日間を費やしたりと、而して此等は皆柳浪の上作を以て稱せらるゝもの、柳浪の健筆思ふべし。

◎横濱居留地に於ける支那人の妾及び婦さなれる本邦婦人は千百六十名なり。

◎米國女權の比年擴張する、驚くべきものあるなり。其狀況は時報欄内の米國女界の近況に就て見るべし。

時報

故英照皇太后陛下の御遺髮分塔

英照皇太后陛下の御遺髮をば、一は高野山金剛峰寺に納められ、其爲同寺へ金百圓幷に御遺物御鏡二面、鍛子幔幕紫下り藤御紋付一張、御菌雲綱緞御儀式用二枚、御廣蓋黑蠟色塗下り藤御紋付一組を下賜せられ、また一は、京都東福寺山内仲恭天皇御陵の北なる、皇太后陛下御父君後遍照金剛寺關白九條尙忠公御墓の東へ納められ、御塔石は奈良般若寺にある古塔を寫して建立せらるゝよしに承はる。なほ御遺物千餘點を皇族攝家の御血筋の方々へ分與ありしさぞ。

◎臺灣の女子敎育

◎臺灣にてはいよ〳〵八芝林國語學校第一附屬學校に女子部を設け五月廿六日土人女子四十八人に入學を許し授業を開始せり。學科は修身國語習字造花編物裁縫及び唱歌にして、生徒年齡平均十五歲九、最長廿九年二ヶ月最少六年一ヶ月のよし。

◎廣島婦人慈善會　は六月十五日を以て同地偕行社に開かれたり、來會者は在廣陸軍將校及同相當官夫人數十名にして、伊藤軍隊布敎師の講話ありたりさ。同會は明治十八年九月其初め廣島博愛婦人會の名を以て起りたるものにて、毎月一回偕行社に於て、衛生看護濟家の談話を開き、また慈善博愛の道を講じて貧窮無告者被災者等を救恤するの目的なりさいふ。

◎岡山、香川の御下賜金使用法　岡山縣にては故英照皇太后御崩御に付きての御下賜金九千五百圓の外、地方稅より一時に三万圓を支出し、之を以て救濟の基本を定め、香川縣にては御下賜金五千八百圓の外、地方稅より年々五千圓づゝ四ヶ年を期して支出し、且つ僧侶諸民より一万圓を募集し、合せて三万五千八百圓を以て救濟の基本金さ定むるよし。なほ岡山には備作惠濟會なるもの起り、香川に慈惠救濟會起り、與に有志者の醵金を以て慈善事業をなすさいふ。

◎山陰慈惠院　は鳥取縣東伯郡矢送村大字關金宿の人遠藤龜藏氏の近時設立する處にかゝり、天下無告の孤兒及び赤貧なる可憐兒を救濟するを以て目的さするものなり。其氣脉岡山孤兒院さ相通ずるものゝ如し、

◎京都淨土宗　の諸有力者は、大に婦人敎化の方面に力を盡さんさし其一部さして、病院勤務の看護婦に布敎しつゝあるに、成績見るべきものありさいふ。

◎錦織竹香女史　出雲美濃郡高津の有志は六月六日に、裁縫教授さして益田滯在中の普通裁縫書著者錦織竹香女史を聘し、斯道の講話を催せり。會する婦女二百餘名、女史は女子敎育及び裁縫分解敎授法に關し、懇切熱心に三時間餘の講話をなし、集會者に感動を與へしが臨席の郡視學も亦た胎内敎育に付、一塲の談話を試みたりさ。又女史の滯留を機さし、同日蟠龍湖畔に於ても美濃鹿足兩郡在勤の師範校女子部卒業生幷裁縫講習生の同窓會を開きしさいふ。

◎大日本婦人義勇會發起人　松本愛子の發起に係る同會は、全國婦人の義捐金に依り、一大軍艦を製出する目的にて、目下其主趣書を公にしたるが、本部は神田三崎町に創立する由。

◎裁縫教授法の新案　栃木縣高等小學校裁縫專科敎員小出新二郎氏は裁縫教授法に付、一新法を考案したるを以て、此法の普及を謀らんが爲め、此程上京し、近日一小學校に於て實地教授をなして、有志の批判を仰ぐべしさいふ。氏の考案を以てすれば從來一人毎に指敎せしを、一時に五十人乃至百人にても、容易に教授し得るのみならず、敎員の骨折も少く、生徒にも覺え能きを以て、此法に依て敎授すれば、高等小學校を卒業する迄には、其女子に必要なる裁縫の一通りは、習得し終る見込なりさ云ふ。

◎女子高等師範學校の紛議　學政の當路者は纔花政略を行ひて、直轄諸學校長の給料を增加せしが、爰に女子高等師範學校にては、豫算の過剩金十二圓五十錢なるに、秋月校長の增俸年額五百圓にして、之を知らざりし文部省は右事實の發覺さ共に大に狼狽して、百方塗抹せんさ勉め居る由なるが策の第一は校長免職の外なけれど因循安を偸みて斷たる處分は思ひも掛けず、第二は有力なる同校敎官を非免せしむるに在れど、目下敎官に曠職者一人もあらざれば、非免抔さは以ての外なるべし。只窮策は同校書記及び其他兩三名を免職し、事務を舉けて文部屬官兼任せしむるあるのみ。斯くして得たる過剩金を校長の增俸に資せん外なき有様

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

にて同校校長の不平甚だしく、校長增俸の爲めに、有用の人々を淘汰せんは情理の許さざる所にして此拙策を取らばやはか其儘默すべきかと、意氣込居る由なれば校長の免職遂に免るべからずと、新聞紙は報ぜり。

◎婦人新報　日本婦人矯風會の機關雜誌なる婦人新報は今回新聞紙條例を遵奉して發行することゝなり、五月分より第一號と改めて發兌したり。

◎島根縣高等女學校　は去る五月九日より授業を開始したりといふ。

◎米國の女界近況

◎少年囚徒學校　シカゴ婦人倶樂部は其地方監獄内の少年囚徒教育の爲、一學校を設立するが爲めに、地方政廳に向つて、毎月五十弗の支出を請願したり。同校は來る七月一日より開校せん見込なりといふ。

◎ウイニフレッド、ワーレン孃　ボストン府の同孃は、曩にボストン大學を卒業して、ブリンモア女子大學に研究生となり、外國遊學奬學金を得て歐洲に勉學しつつあるが、今般ヴアッサー女學大學ラテン語教授として招聘を受けたり。同孃はボストン大學總理ワーレン氏の令孃なりと云ふ。

◎女子の銀行頭取　ジエー、エチツ、ヒルス夫人はミシガン州クロスウエル市國立銀行の頭取たり。なほ同銀行には、他に一名の女子の支配人ありといふ。

◎女子等希臘に義捐金をなす　五月四日ボストン府に於て開かれたる一集會に於て、出席の婦人等五百弗を出金して、希臘軍に義捐したり。なほ同會はメリー、エー、リヴアーモーア夫人の動議によりて、英國女皇に對つて、女皇の希臘軍に贊成するや否やを詰問するの件を可決したり。

◎黒人女子の醫師　此程米國にて始めて黒人女子の醫師あるに至りたり。これ或は世界に於て黒人女子の醫師となるの權輿なるか。其人はエムマ、ウエークフイールド孃と呼ばれ、ニューオルレアンのアフロ、アメリカン大學醫學部を卒業して去る五月三日ルイシアナ州醫師開業試驗委員局の詮衡を經て、開業免狀を受領したり。

◎女子の大旅店主　フロリダ州ジヤクソンヴイルの最大ホテルなるウインドソアといへるは、ドツヂ夫人といへる一女子の所有且支配する處にして、夫人は近來、自ら教育したる一青年を番頭に擧げたり。

◎アバルヂーン伯爵夫人　は近時オンタリオ州キングストンのクイーン大學より大博士の名譽號を受けたり。

◎女子の郵便局長　メリー、レッドフイールド、ニューランド孃といへるは、此程ニューヨーク州ウエスト、ポイントの郵便局長に任命せられたり。

◎女子財務委員長　マーガレット、ケーン孃といへるは、此程カンサス州キチワ地方廳の財務委員長となれり、同孃はこれまで六ケ年間同廳にて財務委員の一人として、事務の手際頗る美事なりしものとぞ。

◎女子の公證人　シカゴ市なるパーンス及パーテルム代言事務所の代言人たり、且又北西大學の女子醫學部に裁判醫學の講座を持てたる、メリー、エム、パーテルム孃は、此程イリノイス州、クツク市の公證人となれり、米國にて女子にして此職に任ぜらるゝは孃を以て嚆矢となす

◎女子の製造處監督委員　イリノイス州知事タンナー氏は、今回クラリダ、エム、コープ夫人并にウインニー、エム、クリスセイ夫人の兩名を擧げて、製造處監督委員に任じたり。

◎ブローチル孃　コロチル大學評議員會は、此程ルイ、シエフイールド、ブローチル孃を以て、同大學内セージ高等學校の監督并に英文學教授に任じたり。

◎女子米國教育大會の主權を握らんとす　コロラド州デンヴアーの教師倶樂部は次回の米國教育大會年會に於て、同會の主權を婦人の手に握らんとするの企てありて、不日之に關する檄文を發して米國全州の教員(小學中學の教員なり)の贊同を求むるといふ。其主旨は、米國の教員の百分の九十は婦人にして、從つて此全國教育大會の大多數は婦人なるにも拘らず、其會の主權が、將來の市民を超すべき少年教育に經驗乏しく、關係少き男子の手に在るは不條理なりといふに在り。

◎女子の從軍記者　希臘軍の從軍新聞記者中に一人の女子あり、其名をイモゼーン、カーターといふ。

◎リンデン伯爵夫人　は獨乙ハーレ大學動物學教授ブランヂス氏の不在中、其講座を擔任することゝなれり。同夫人は此迄ブランヂス氏の助手たりしものといふ。

◎英國皇太子妃希臘軍に贊成す　英國皇太子妃は其兄弟なる希臘王ゼオルヂ陛下の、今回の處置に大に贊成せるが爲め、英國内閣と不和を生ずるの傾向ありといふ。

◎ウインナ大學最初女醫博士　ウインナ大學にては先般初めて一女子に醫學博士の稱號を授けたり。女子名は男爵ブロザウエル、フオン、エーレンタールといへり。此人曩にチユーリツヒ大學にて學位を受け、また墺太利にて醫術開業試驗委員の詮衡を經て、開業せるものなりといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新著月刊

第四卷 七月三日發行 毎月一回

地方取次販賣を望まるゝ諸君は至急御申込あれば大に便宜の法を以てこれに應ずべし

◎口繪
●美人駕籠に倚る圖（木版極彩色）富岡永洗
●夢裏の雛妓（小川寫眞版）鏑木清方

◎新作小説
●清心庵（全）泉鏡花
●紅筆（全）山岸荷葉
●底無沼（全）山下雨花
●誰が罪（全）後藤宙外

◎新躰詩
●小夜嵐 紀月中子
●空城白日長 泣菫

◎時文
●先秦とは何ぞや ●腹藝の意味 ●新躰詩寄稿者に告ぐ

◎作家苦心談
●篁邨氏が自筆の苦心談
紅葉氏『色懺悔』『此ぬし』『南無阿彌陀佛』由來及び逸話等
綠雨氏が最得意の狹斜通談 皆興味涌が如きもの須く讀むべし

●本誌注文は東華堂宛投稿は丁酉文社宛

●次號には夏期大附錄を付す

定價 一冊十五錢●五冊前金七十二錢五厘●十冊前金一圓四十錢●郵税一冊二錢宛

編輯所 東京牛込區神樂町二丁目十四番地 丁酉文社

發行所 東京神田今川小路二丁目二番地（電話本局九百六拾貳番）東華堂

横山雅男著
婚姻論
正價十二錢 郵税四錢

若松賤子英文集
巖本嘉志子
正價六十錢 郵税四錢

鈴木弘恭大人著
百人一首講義
正價廿八錢 郵税四錢

女學雜誌社

自由黨報

第百參拾五號

黨論 布哇問題及米國合併條約 …… 加藤平四郎

論說
- 吁此の國家を如何せむ …… 鬼莢容
- 政黨革新策(天) …… 關亮
- 政治家の弊 …… 杉田定一

雜錄
- 歐米列二重商況視察(下) …… 田中賢道
- 閑日月 …… 遊池凡見
- 如是社會觀(二) …… 波多江堅武
- 感五則 …… 佐久間傳太
- うるさきもの
- 經濟消息

世界 ○朝鮮○支那○暹羅○希土と列國の動靜及クリート島○伊太利○墺地利○獨逸○佛蘭西○西班牙○英吉利○合衆國○印度○布哇

黨報 ○新潟縣に於ける杉田氏一行○富山縣に於ける杉田氏一行○奈良縣に於ける小室代議士○黑川自由團の發會式○高知支部政談大演說會○自由黨關東青年大會準備會

時事 ○彈閥苦死○往時顧盻○今日に徵して○三派の命數か減す○實行者にあらす○人間乎○自家の肺肝○外交の能事○既往は尤めす○如何に鼓舞する○厄拂○あればあるもの○蚯蚓○阿呍○古今の變○火中の蓮○引導○嘶○日本銀行○碁にも枠にも○世界將來の活劇場◉新刊紹介(鬼評)◉時事日記

芝公園第五號地二番

自由黨報局

日本宗教

第二卷第十二號　六月三十日刊

社說
- ◉第二社年を葬る
- ◉主義、學論及び宗教
- ◉助々一疑團なかるべし

論說
- ◉佛教外護の必要 …… 釋雲照

史傳
- ◉景住教の教祖及其教理 …… 海老名彈正

雜纂
- ◉微笑隨錄 …… 落花如雲
- ◉小笠原島の宗教事情 …… 中島壽一郎
- ◉至誠の人を俟つ …… 戸川残花
- ◉談機片々 …… 菅瀬隈士

思潮
- ◉如是我觀日本主義(上) …… 觀潮菴
  - (一)日本主義唱道者等の閲歷
  - (二)日本主義の綱目を評す
  - (三)日本主義の發現を評す
  - 附、人彼等を目するに氣狂を以てす
  - (四)日本主義と神道の本旨
  - (五)日本主義と復古的精神
- ◉日本主義第二號、宗教家第二回懇談會に關する時評に就きて其妄を排す …… 月川
- ◉日本主義第一號、大學教師ケーベル氏の感論と題する時評に就きて其輕卒を戒む …… 希聲
- ◉護教記者、山路某の訣別の辭を評む …… 潮陽
- ◉方今道德界の要務●宗教管孫●佛教徒の反省を促す●兩本願寺法主に上る書
- ◉宗教界時事數十件●新刊雜誌綱目錄表◉日本經濟雜誌●新著月刊第三號●千代田

七月刊行より第三卷第一號とし紙面に刷新を行ふ

定價一部金十錢郵税五厘、六冊前金郵税共六十錢、一年分壹圓十五錢

東京麴町區下六番町六番地

發行所

日本宗教社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校義捐金領收廣告

第十回（慈善水彩圖展覽會の際ノ二）

金二圓也　伊藤忠三殿
金同　今村清之助殿
金同　鳩山春子殿
金同　主教ニコライ殿
金同　金森通倫殿
金同　高田耕安殿
金同　高田早苗殿
金同　中濱東一郎殿
金同　植村俊平殿
金同　安田菊太郎殿
金同　松平茂正殿
金同　船越衛殿
金同　仙石家殿
金同　磯部彌一郎殿
金同　石川増子殿
金同　井上病院殿
金同　大鳥圭介殿
金同　押川則吉殿
金同　大西孝代殿
金同　大川孝殿
金同　笠井脩子殿
金同　吉田伸子殿
金同　田口卯吉殿
金同　龍居頼三殿
金同　倉西松二郎殿
金同　松田龍章殿
金同　藤井やそ子殿

社告

再版　若松賤子譯　**小公子**　正價金三十五錢　郵税金八錢

布川静淵、小此木秀野合著　**俳諧史傳**　正價金二十七錢　郵税金四錢

巖本嘉志子　若松賤子英文集　正價六十錢　郵税金四錢

前々號及前號に正價二十七錢とあるは六十錢の誤

六版　鈴木弘恭大人講述　**百人一首講義**　正價金廿八錢　郵税金四錢

女學雜誌一手大賣捌　東京神田區表神保町　東京堂

明治廿七年二月十四日内務省許可
明治三十年六月二十四日印刷
明治三十年六月二十五日發行

發行兼編輯者　東京市麹町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地　岸高光
發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社
印刷所　東京市牛込區市谷加賀町二丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場（電話本局十九番）

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON
HQ
1.C4
J76+

July. 1897

No. 445

明治三十年七月十日

女學雜誌

第四百四十五號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY